

科 目 名：予防歯科学

担 当 教 員：小川 祐司、葭原 明弘、濃野 要、金子 昇、KAUNG MYAT THWIN、西 真紀子、深井 浩一（非）、林 悠子（非）、岩崎 正則（非）

開 講 番 号：200DS401

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

予防歯科学の講義は、臨床予防歯科学、地域口腔保健学および国際口腔保健学からなる。全身の健康保持増進、QOLの向上に貢献できる口腔健康管理について、社会学的、臨床歯科学的に講義する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

予防歯科学の基礎知識と技術を身につける。同時に、予防学を通して歯科医療哲学の形成に努める。

【学習の到達目標】

- ・年齢に応じたターゲット疾患を理解し、予防法の基礎と理論を理解する。
- ・口腔疾患の評価法と発症の予測法に関する理論と実際について理解する。
- ・主としてう蝕予防と歯周病予防を公衆衛生、および、個人管理（院内）の中で実施する方法を理解する。
- ・口腔保健を国際的な視点で捉える理論を理解する。

【授業形態】

講義形式を主体とする。

【履修上の注意】

- ・あらかじめ教科書を読み、疑問点を整理し講義に臨むこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/9（木）3限	口腔保健・予防歯科学総論（講義概要について）（小川）	テキストp2-9
2	4/9（木）4限	口腔保健と疫学（齲蝕・歯周病指標）（小川）	テキストp33-42、52-63、95-122
3	4/16（木）3限	フッ化物の代謝、歯のフッ素症とう蝕予防（濃野）	テキストp44～50、121、137～138
4	4/16（木）4限	フッ化物応用の普及（濃野）	テキストp44～50、137-139
5	4/23（木）3限	口腔バイオフィルムの病原性とその予防（プラークコントロール）（金子）	テキストp15～32、152-163
6	4/23（木）4限	口臭の原因、検査・診断・治療（濃野）	テキストp64～68、148～151
7	4/30（木）3限	齲蝕の予防指導・処置（Population Strategyを含む）（葭原）	テキストp132～141、185～198
8	4/30（木）4限	禁煙支援・指導、食生活指導（小川）	テキストp164-172
9	5/14（木）3限	口腔と全身の健康（高齢者・有病者の口腔ケアを含む）（岩崎）	テキストp75～85、174-178
10	5/14（木）4限	歯周組織の健康管理（歯周病の予防指導・処置）（深井）	テキストp142～147、152-163
11	5/21（木）3限	地域口腔保健の概要（小川）	テキストp180～198
12	5/21（木）4限	地域行政の口腔保健対策（林）	テキストp180～198
13	5/28（木）3限	口腔保健の世界戦略：日本の齲蝕有病状態—齲蝕制圧モデルと世界の齲蝕有病状態とその予防戦略（西）	テキストp33～36、100～102、111～113、123～125、274～280
14	5/28（木）4限	国際口腔保健の実践（カウン）	テキストp274～280
15	6/4（木）3限	オーラルヘルスプロモーションの実践（ライフコースアプローチ）（濃野）	テキストp87-92
16	6/4（木）4限	試験	

【成績評価の方法と基準】

選択式および記述式の筆記試験（100%）により評価する。

【使用テキスト】

安井利一他編：「口腔保健・予防歯科学」医歯薬出版（10,000円）

【参考文献】

- ・小川祐司監訳：「口腔診査法第5版－WHOによるグローバルスタンダード－」口腔保健協会（1,800円）
- ・花田信弘他監修：「臨床歯科栄養学－歯科に求められる栄養の基礎知識－」口腔保健協会（4,800円）
- ・日本口腔衛生協会フッ素研究部会編：「口腔保健のためのフッ化物応用ガイドブック」口腔保健協会（3,000円）
- ・吉江弘正他監著：「高齢者への歯周治療と口腔管理」インターアクション（18,500円）
- ・吉江弘正他編著：「歯周病診断のストラテジー」医歯薬出版（12,000円）
- ・予防歯科臨床教授協議会編：「予防歯科実践ハンドブック」医歯薬出版（5,500円）
- ・予防歯科臨床教育協議会編：「実践予防歯科」医歯薬出版（9,500円）
- ・宮崎秀夫編：「口臭診療マニュアル：EBMに基づく診断と治療」第一歯科出版（9,400円）
- ・深井穂博編著：「健康長寿のための口腔保健と栄養をむすぶ」医歯薬出版（3,800円）
- ・World Health Organization編：「WHO Monograph on Tobacco cessation and oral health integration」World Health Organization（50 USD）

科 目 名：予防歯科学実習

担 当 教 員：小川 祐司、濃野 要、金子 昇、久保田 悠、KAUNG MYAT THWIN、西 真紀子

開 講 番 号：200DS402

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

予防歯科学に関連するテーマを選択し、実習デザインの検討からプレゼンテーションまで、少人数グループによる問題設定および解決型の実習を行う。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

予防歯科学の主要テーマについて研究のプロセスおよび発表、ディスカッションの方法を学ぶ。

【学習の到達目標】

論文などの科学情報の選別、レビュー、調査研究の仮説形成、研究デザイン立案に始まる研究のプロセスを理解し、データに基づく発表とディスカッションの方法を学ぶ。

【授業形態】

グループでテーマを設定し、実験や調査を行い、その結果をまとめ発表を行う。一連の実習は担当教員の指導のもと、主体的に全体の計画も含め決定しながら進める。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	6/11（木）3-4限	テーマ選定・関連文献収集（実習説明・準備）（全員）	予防歯科の復習
2	6/18（木）3-4限	関連文献収集・レビュー（全員）	文献収集の方法について
3	6/25（木）3-4限	実験・調査計画立案（全員）	テーマに関する調査の準備
4	7/2（木）3-4限	実験・調査（データ収集①）（全員）	〃
5	7/9（木）3-4限	実験・調査（データ収集②）（全員）	〃
6	7/16（木）3-4限	実験・調査（データ入力・集計・解析）（全員）	〃
7	9/3（木）3-4限	発表準備（原稿、図・表、スライド作成）（全員）	発表・討論の準備
8	9/10（木）3-4限	プレゼンテーション・ディスカッション（全員）	

【成績評価の方法と基準】

実習態度（全出席が原則の上で、20%）、成果の質（50%）、プレゼンテーションの貢献度（20%）、ディスカッションの参加態度・貢献度（10%）により評価する。なお、評価は学生の相互評価および指導教員の評価の両面から行う。

【使用テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

テーマに応じて適宜紹介する。

科 目 名：歯周病学

担 当 教 員：多部田 康一、山崎 和久、奥田 一博、小林 哲夫、杉田 典子、小松 康高、高橋 直紀、
野中 由香莉

開 講 番 号：200DS403

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：2単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

歯周病学について理解されるべき基礎知識（学術背景、病因・病態）及び歯周治療（検査、診断、治療）に必須となる基本的な臨床知識について、アクティブラーニングを取り入れた講義を行う。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯周治療において必要な細菌因子、宿主因子、環境因子への対応を適切に行うために、歯周病の病因・病態及び治療（検査、診断、治療）の理論と方法を理解する。さらに、一口腔単位での歯科治療を行うために必須となる歯周治療体系についての知識を習得する。

【学習の到達目標】

- ・歯周病の症状と種類を説明できる。
- ・歯周病の原因とリスクファクターを説明できる。
- ・歯周病の検査方法、診断方法を説明できる。
- ・歯周治療体系を説明できる。
- ・治療計画を立案できる。
- ・歯周病と全身疾患の関連について説明できる。
- ・歯周基本治療について説明できる。
- ・歯周外科治療について説明できる。
- ・歯周組織再生について説明できる。
- ・機能回復治療について説明できる。
- ・メンテナンス・サポータティブペリオドンタルセラピーについて説明できる。
- ・歯周病と全身疾患との関連を説明できる。
- ・歯周病と全身疾患の関連メカニズムを説明できる。

【授業形態】

- ・講義、演習（第25回）、TBL：Team Based Learning（第14、15、20回）をおこなう。
- 各回講義内容（2コマ分）の小試験を次回各1限に実施する。

【履修上の注意】

- ・あらかじめ教科書を一読すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/14（火）1限	歯周病学総論1：歯周疾患の種類、症状、疫学（多部田）	テキストpp1-16
2	4/14（火）2限	歯周病学総論2：歯周疾患の病因、病態（多部田）、 TBL1、2の課題提示と説明（多部田、高橋）	テキストpp18-25
3	4/21（火）1限	歯周病学総論3：歯周疾患の検査、治療、治療と予後（多部田）	テキストpp1-25、146-155、240-247
4	4/21（火）2限	歯周疾患における細菌因子（山崎）	テキストpp176-183
5	4/28（火）1限	歯周疾患の免疫応答（山崎）	テキストpp184-191
6	4/28（火）2限	歯周病のリスク因子（山崎）	テキストpp198-205
7	5/8（金）1限	歯周治療学総論：歯周治療体系（多部田）	テキストpp1-16、362-371
8	5/8（金）2限	歯周病の検査、診断、治療計画（多部田）	テキストpp26-43
9	5/12（火）1限	歯周基本治療1：プラークコントロール（多部田）	テキストpp44-53
10	5/12（火）2限	歯周基本治療2：スケーリングの適応、方法（多部田）	テキストpp62-71
11	5/19（火）1限	歯周基本治療3：咬合性外傷と調整法（多部田）	テキストpp72-81
12	5/19（火）2限	歯周膿瘍・分岐部病変処置（多部田）	テキストpp98-107、134
13	5/26（火）1限	歯周治療におけるレーザー治療（小松）	テキストpp292-299
14	5/26（火）2限	TBL1：歯周病と糖尿病、歯周病と心疾患、（高橋、野中、多部田）	詳細は授業時に指示する
15	6/2（火）1限	TBL2：歯周病と低体重児出産、歯周病と骨粗しょう症（高橋、杉田）	詳細は授業時に指示する

16	6/2 (火)	2限	歯周医学1：歯周病と全身疾患の関連（山崎）	テキストpp206-217
17	6/9 (火)	1限	歯周医学2：歯周病と全身疾患の因果、介入（山崎）	テキストpp206-217
18	6/9 (火)	2限	歯周病とリウマチ（小林）	テキストpp1-25
19	6/16 (火)	1限	歯周病と遺伝子診断、歯周病と免疫療法（小林）	テキストpp192-197
20	6/16 (火)	2限	中間試験、TBL3の課題提示と説明（多部田、山崎、小林、高橋）	詳細は授業時に指示する
21	6/23 (火)	1限	歯周外科治療1：歯周外科手術の種類と適応（奥田）	テキストpp82-97
22	6/23 (火)	2限	歯周外科治療2：骨移植法（奥田）	テキストpp258-265
23	6/30 (火)	1限	歯周外科治療3：歯周組織再生の理論と術式（奥田）	テキストpp266-271
24	6/30 (火)	2限	歯周外科治療4：組織工学的再生法（奥田）	テキストpp272-277
25	7/7 (火)	1限	歯周外科治療5：診断と治療法の選択（奥田）	詳細は授業時に指示する
26	7/7 (火)	2限	歯周病患者の補綴、歯周病患者のインプラント治療（小松）	テキストpp324-335
27	7/14 (火)	1限	歯周矯正治療（多部田）	テキストpp308-315
28	7/14 (火)	2限	メインテナンスとSPT（多部田）	テキストpp122-129
29	9/1 (火)	1限	TBL3：歯周治療計画（多部田、高橋）	詳細は授業時に指示する
30	9/1 (火)	2限	高齢者・有病者における歯周治療（高橋）	テキストpp292-299
31	9/8 (火)	1限	歯周病と咬合崩壊、特殊な歯周疾患の治療（野中）	テキストpp352-371
32	9/8 (火)	2限	期末試験（多部田、奥田、高橋、小松、野中）	詳細は授業時に指示する

【成績評価の方法と基準】

小試験（20%）、中間試験（35%）、期末試験（35%）の筆記試験及びTBLの発表・レポート・質疑応答（10%）により評価し、60点以上を合格とする。

【使用テキスト】

吉江弘正、伊藤公一、村上伸也、申 基詔 編集、臨床歯周病学第2版、医歯薬出版、9,000円

【参考Webサイト】

特定非営利活動法人 日本歯周病学会 歯周病学基礎実習動画 http://www.perio.jp/news/basic_practice.shtml/

科 目 名：歯周病学実習

担 当 教 員：多部田 康一、小林 哲夫、杉田 典子

開 講 番 号：200DS404

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

歯周治療を行うために必要な検査、診断、歯周基本治療、歯周外科治療及び患者説明・指導について、歯周病病態模型を用いた模型実習並びに相互実習を行い学習する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯周病についての検査、診断、歯周基本治療、歯周外科治療について理解し、基本的術式を習得する（知識・技能）。さらに歯周病患者に対する説明・指導に必要な基本的知識・コミュニケーションについて理解し、習得する（知識・技術・態度）。

【学習の到達目標】

- ・歯周病の症状と検査項目、歯周治療体系を説明できる。（知識）
- ・歯周病の検査・診断を説明し、実践できる。（知識・技能）
- ・各種歯周治療の適応症と術式を説明し、基本的治療術式を実践できる。（知識・技能）
- ・歯周病治療についての患者説明・指導ができる。（知識・技能・態度）

【授業形態】

予習状況評価→講義→実習→習得状況評価を1セットとして行う。

【履修上の注意】

- ・あらかじめ、実習内容についてテキスト、配布実習書、関連Web動画による予習を必要とする。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/2（金）3-4限	実習概要、歯周治療体系（多部田、小林）	実習書、テキスト①pp27～36、②pp36～43
2	10/9（金）3-4限	歯周検査1：プロービング（小林）	実習書、テキスト①pp6～19、②pp28～32
3	10/16（金）3-4限	歯周検査2：X線検査（杉田）	実習書、テキスト①pp20～22、②pp33～34
4	10/23（金）3-4限	病状説明、ブラッシング指導（小林）	実習書、テキスト①pp39～64、②pp44～53
5	10/30（金）3-4限	プラークコントロール（小林）	実習書、テキスト①pp39～64、②pp44～53
6	11/13（金）3-4限	スケーリング・ルートプレーニング1（小林）	実習書、テキスト①pp67～95、②pp62～71
7	11/20（金）3-4限	スケーリング・ルートプレーニング2（小林）	同上
8	11/27（金）3-4限	実習試験1（多部田、小林、杉田）	詳細は授業時に指示する
9	12/4（金）3-4限	歯周外科1：フラップ手術・ディスタルウェッジ（小林、杉田）	実習書、テキスト①pp115～147、②pp82～107
10	12/11（金）3-4限	歯周外科2：フラップ手術・ルートリセクション（小林、杉田）	同上
11	12/18（金）3-4限	歯周外科3：歯肉切除術（小林、杉田）	同上
12	12/25（金）3-4限	歯周外科4：フラップ手術・ヘミセクション（小林、杉田）	同上
13	1/8（金）3-4限	咬合検査、咬合調整（小林）	実習書、テキスト①pp151～164、②pp72～81
14	1/15（金）3-4限	暫間固定（小林）	実習書、テキスト①pp173～181、②pp108～112
15	1/22（金）3-4限	実習試験2（多部田、小林、杉田）	詳細は授業時に指示する
16	1/29（金）3-4限	実習総括（小林）	詳細は授業時に指示する

【成績評価の方法と基準】

筆記小試験（48%）、実習提出物および実習態度（32%）、臨床実地形式実習試験（20%）により、学習の到達目標の達成度を評価する。

【使用テキスト】

- ①新潟大学医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野 編「歯周病学実習のストラテジー（第2版）」オリジナルテキスト（3,600円）
- ②吉江 弘正・他編「臨床歯周病学（第2版）」医歯薬出版（9,000円）

【参考Webサイト】

特定非営利活動法人 日本歯周病学会 歯周病学基礎実習動画 http://www.perio.jp/news/basic_practice.shtml/

科 目 名：欠損補綴学Ⅰ

担 当 教 員：小野 高裕、堀 一浩、米田 博行

開 講 番 号：200DS405

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：2単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

全部床義歯による無歯顎補綴治療の実際について学習する。全部床義歯製作にかかわる技工操作を咬合器上にて行うとともに、口腔内で行う臨床操作にかかわる実習についてマネキンを使用して行う。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

全部床義歯製作を通して、無歯顎補綴治療の過程を学習するとともに、その設計原理や必要とされる解剖学的指標を理解する。さらに、全部床義歯製作にかかわる技工操作や臨床手技の基礎を習得する。

【学習の到達目標】

- ・全部床義歯の目的と意義および具備条件を説明できる。
- ・全部床義歯の設計原理を理解し、適切に設計を行うことができる。
- ・全部床義歯の印象採得に必要な解剖学的な指標を説明でき、印象採得を実践できる。
- ・咬合採得する下顎位と咬合採得の手順を説明、実践できる。
- ・全部床義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。
- ・全部床義歯の製作過程を説明でき、基本の手技ができる。
- ・全部床義歯の咬合様式とその意義を説明できる。
- ・全部床義歯装着時の患者指導内容について説明できる。

【授業形態】

E-learningによる予習、小テスト受験を前提として実習を行う。実習ではこれまでの講義、自習で得た全部床義歯の知識を、実際の診療・技工過程を体験することで体系づける。

【履修上の注意】

- ・あらかじめ、E-learningの映像コンテンツで実習内容を確認しておくこと。また、E-learning上での確認テストを修了しておくこと。実習中は、その内容について理解を深めるよう努める。
- ・実習では、可燃物、粉塵、切削器具（刃物）等、ある意味では危険な物を扱うので、マスク、防塵メガネ、手袋などを装着し、各自の健康を守ることを心掛ける必要がある。そして、器具や物品の取り扱いについては十分に注意すること。
- ・アレルギー疾患のある者は特に注意すると共に、事前に申し出ること。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/8（水）2-4限	全体説明、器材配布、概形印象、研究用模型製作（堀、米田）	概形印象と研究用模型の目的と手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
2	4/15（水）2-4限	個人トレー製作、最終印象（堀、米田）	個人トレー製作と最終印象の手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
3	4/22（水）2-4限	咬合床製作、咬合採得（堀、米田）	咬合床の設計と咬合採得の手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
4	4/29（水）2-4限	咬合床製作、咬合採得（堀、米田）	咬合床の設計と咬合採得の手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
5	5/13（水）2-4限	前歯部人工歯排列（堀、米田）	人工歯選択と人工歯排列の手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
6	5/20（水）2-4限	臼歯部人工歯排列（堀、米田）	人工歯選択と人工歯排列の手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
7	5/27（水）2-4限	蠟義歯試適（堀、米田）	蠟義歯試適の手順とチェックポイントについてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
8	6/3（水）2-4限	歯肉形成、埋没（堀、米田）	歯肉形成の目的と埋没の手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
9	6/10（水）2-4限	埋没、流蠟（堀、米田）	埋没・流蠟の手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
10	6/17（水）2-4限	レジン重合（堀、米田）	流し込みレジンの特徴と重合の手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。
11	6/24（水）2-4限	義歯掘り出し（堀、米田）	義歯掘り出しの手順についてテキスト、E-learning（確認テストを含む。）にて予習する。

12	7/1 (水)	2-4 限	咬合器再装着、削合 (堀、米田)	全部床義歯に与えられる咬合様式と削合の手順についてテキスト、E-learning (確認テストを含む。) にて予習する。
13	7/8 (水)	2-4 限	削合、咬合面調整 (堀、米田)	全部床義歯に与えられる咬合様式と削合の手順についてテキスト、E-learning (確認テストを含む。) にて予習する。
14	7/15 (水)	2-4 限	研磨 (堀、米田)	研磨の目的と手順についてテキスト、E-learning (確認テストを含む。) にて予習する。
15	9/2 (水)	2-4 限	義歯装着、提出 (堀、米田)	義歯装着の手順と患者指導項目についてテキスト、E-learning (確認テストを含む。) にて予習する。
16	9/9 (水)	2-4 限	義歯設計実習 (小野、堀、米田)	提示された症例について、発表する義歯設計案をグループでディスカッションして検討する。

【成績評価の方法と基準】

実習の出席率が3/4以上である者に対し、提出物 (40%)、実習試験 (20%)、実習態度 (20%)、E-learning予習状況 (20%) により総合的に評価する。

【使用テキスト】

細井紀雄・他編「パーシャルデンチャーテクニック (第6版)」医歯薬出版 (9,000円)

新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野 編「全部床義歯実習書」オリジナルテキスト (3,000円程度予定)

【参考文献】

市川 哲雄・他編「無菌顎補綴治療学 (第3版)」医歯薬出版 (11,000円)

【参考Webサイト】

<http://elearn-lhotetsu.dent.niigata-u.ac.jp/>

科 目 名：欠損補綴学Ⅱ**担 当 教 員：**魚島 勝美、秋葉 奈美、青柳 裕仁、長澤 麻沙子、Rosales Marcelo**開 講 番 号：**200DS406**開 講 学 期：**第2学期**水 準：**14**単 位 数：**1単位**対 象 学 部 等：**歯学科4年生**【科目概要】**

歯の欠損補綴を行う際に必要な専門的知識・技能を講義・実習を通して習得する。歯科臨床能力（クリニカルスキル）を高めるためアクティブラーニングを取り入れた講義・実習を行う。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯科臨床能力（クリニカルスキル）を高めるため、欠損補綴（ブリッジ）に必要な専門的知識・技能・態度を習得する。

【学習の到達目標】

- ・ブリッジの意義・種類・適応症を説明できる。（知識）
- ・ブリッジの構成要素・設計法・ポンティックの種類を説明できる。（知識）
- ・ブリッジの形成法を習得する。（技能）
- ・接着性ブリッジについて説明できる。（知識）
- ・欠損補綴の診断と治療法が選択できる。（知識・技能）
- ・グループディスカッションに積極的に参加する。（態度）
- ・ポートフォリオを作成する。（態度）

【授業形態】

主に講義、実習、SGDを行う。講義・実習の中では事前学習を評価するために小テストを行う。その他に歯科技工所の見学実習を行う予定である。評価方法は形成的評価と総括的評価を行うほかに、自己評価能力向上のために学生・教員相互評価を行う。実習後は毎回ポートフォリオを作成する。

【履修上の注意】

- ・教科書やE-learning（映像コンテンツ）で事前学習できることは講義・実習では行わないため、実習前には必ず映像コンテンツを見るなどして予習してくること。
- ・SGDの際には態度を評価するので積極的に参加をすること。
- ・実習ではプロダクト完成の際にチェックシートに検印をもらうこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/5（月）2限	講義：欠損補綴の種類・意義・ポンティック・ブリッジの適応症、診査と設計（長澤）	ビデオによる手技確認
	3-5限	実習：ブリッジ支台歯形成・TEC・クラウンリムーバー使用（左上567ブリッジ・右上1左上12ブリッジ・右上345ブリッジ）（長澤・マルセロ・秋葉）	
2	10/12（月）2限	講義：オーラルリハビリテーション（魚島）	SGDの準備、ビデオによる手技確認
	3限	SGD：欠損補綴症例検討①-1（長澤）	
	4限	SGD：欠損補綴症例検討①-2（長澤）	
	5限	SGD：欠損補綴症例検討②（長澤）	
3	10/19（月）2-5限	歯科技工所見学（予定）	歯科技工所の役割について調べる
4	10/26（月）2限	SGD：欠損補綴症例検討③（長澤）	SGDの準備、ビデオによる手技確認
	3-5限	実習：ブリッジ支台歯形成・TEC・クラウンリムーバー使用（左上567ブリッジ・右上1左上12ブリッジ・右上345ブリッジ）（長澤・マルセロ・秋葉）	
5	11/2（月）2限	講義：インプラント・歯根破折（魚島）	SGDの準備、ビデオによる手技確認
	3-5限	実習：ブリッジ支台歯形成・TEC・クラウンリムーバー使用（左上567ブリッジ・右上1左上12ブリッジ・右上345ブリッジ）（長澤・マルセロ・秋葉）	
6	11/9（月）2-5限	実習：ブリッジ支台歯形成・TEC・クラウンリムーバー使用（左上567ブリッジ・右上1左上12ブリッジ・右上345ブリッジ）（長澤・マルセロ・秋葉）	SGDの準備、ビデオによる手技確認
7	11/16（月）2-3限	実習：ブリッジ支台歯形成・TEC・クラウンリムーバー使用（左上567ブリッジ・右上1左上12ブリッジ・右上345ブリッジ）（長澤・マルセロ・秋葉）	SGDの準備、ビデオによる手技確認
	4-5限	筆記試験・実技試験（長澤）	

【成績評価の方法と基準】

知識を評価する筆記試験（30%）、技能を評価する実技試験（40%）、毎回の実習のポートフォリオおよびグループディスカッションの参加態度（30%）により評価する。

なお、本科目では開講期間を通じて態度評価を行うため、原則として開講期間終了時の評価を最終評価とし、筆記試験と実技試験において特に必要と認めた場合のみ再試験を実施することがある。

【使用テキスト】

矢谷 博文・他編「クラウンブリッジ補綴学（第5版）」医歯薬出版（10,000円）

三浦 宏之・他編「クラウンブリッジテクニック（第2版）」医歯薬出版（9,000円）

會田 雅啓・他編「冠橋義歯補綴学テキスト（第2版）」永末書店（9,000円）

生体歯科補綴学分野「歯冠修復学オリジナルテキスト」

科 目 名：欠損補綴学Ⅲ

担 当 教 員：小野 高裕、長谷川 陽子、大川 純平

開 講 番 号：200DS407

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

本科目では可撤性部分床義歯による咬合回復法、部分床義歯製作の実際について、マネキンを用いたチェアサイドでの操作、模型と咬合器を用いた技工室サイドでの操作の双方を実習する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

可撤性部分床義歯の製作を通して、部分歯列欠損患者の補綴治療における臨床手技・技工手技の基礎を習得する。

【学習の到達目標】

- ・可撤性部分床義歯の目的と意義および具備条件を説明することができる。
- ・可撤性部分床義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明することができる。
- ・可撤性部分床義歯の咬合様式とその意義を説明することができる。
- ・可撤性部分床義歯の設計原理を理解し、口腔内診察、検査、診断模型およびエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。
- ・咬合採得をする下顎位と咬合採得野手順が説明、実践できる。
- ・可撤性部分床義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。
- ・可撤性部分床義歯の製作過程を説明し、基本的手技ができる。

【授業形態】

E-learningによる予習、小テスト受験を前提として実習を行う。実習ではこれまでの講義、自習で得た部分床義歯の知識を、実際の診療・技工過程を体験することで体系づける。

【履修上の注意】

- ・あらかじめ、E-learningの映像コンテンツで実習内容を確認しておくこと。また、E-learning上での確認テストを修了しておくこと。実習中は、その内容について理解を深めるよう努める。
- ・実習では、可燃物、粉塵、切削器具（刃物）等、ある意味では危険な物を扱うので、マスク、防塵メガネ、手袋などを装着し、各自の健康を守ることを心掛ける必要がある。そして、器具や物品の取り扱いについては十分に注意すること。
- ・アレルギー疾患のある者は特に注意すると共に、事前に申し出ること。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	11/30（月） 2-5 限	概形印象、研究用模型製作、個人トレー製作（小野・長谷川・大川）	あらかじめ、実習用テキストとE-learningの映像コンテンツで実習内容を確認しておくこと。また、E-learning上での確認テストを修了しておくこと。
2	12/7（月） 2-5 限	個人トレー完成、前処置、筋圧形成、最終印象（長谷川・大川）	〃
3	12/14（月） 2-5 限	ボクシング、作業用模型製作、サベイング（長谷川・大川）	〃
4	12/21（月） 2-5 限	設計線記入、耐火模型制作（長谷川・大川）	〃
5	1/14（月） 2-5 限	維持装置のワックスアップ（長谷川・大川）	〃
6	1/18（木） 2-5 限	咬合床製作、咬合採得、咬合器装着（長谷川・大川）	〃
7	1/25（月） 2-5 限	維持装置研磨（長谷川・大川）	〃
8	2/3（月） 2-5 限	人工歯排列（長谷川・大川）	〃
9	2/10（月） 2-5 限	歯肉形成、削合（長谷川・大川）	〃

【成績評価の方法と基準】

実習の出席率が3/4以上である者に対し、提出物（60%）、e-learningでの予習状況（小テスト含む）と実習態度（40%）により成績を評価する。

【使用テキスト】

新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野 編「可撤性部分床義歯実習書」オリジナルテキスト（3,000円程度予定）

【参考文献】

野首 孝祠・他著「新版 現代のパーシャルデンチャー 欠損補綴の臨床指針」クインテッセンス出版（10,000円）
五十嵐 順正・他著「パーシャルデンチャーテクニック（第5版）」医歯薬出版（9,000円）
赤川 安正・他編「歯学生のパーシャルデンチャー（第6版）」医歯薬出版（10,000円）

【参考Webサイト】

e-learning部分床義歯実習デモ映像集 <http://elearn-lhotetsu.dent.niigata-u.ac.jp/>

科 目 名：有床義歯学

担 当 教 員：小野 高裕、堀 一浩、長谷川 陽子、池邊 一典（非）

開 講 番 号：200DS408

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

本科目では、欠損歯列・無歯顎症例を対象とした有床義歯（全部床義歯、部分床義歯）を設計・製作するための技法、おもに口腔・中咽頭がん症例を対象とした顎顔面補綴（顎義歯、舌接触補助床、軟口蓋挙上装置、エピテーゼ）によるリハビリテーションの意義と手法、さらには高齢者のリハビリテーションや介護の現場における有床義歯の現状と問題点について学ぶ。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

全部床義歯・部分床義歯による口腔形態・機能回復および顎顔面補綴による形態・機能回復の理論を理解し、基礎知識を習得する。またリハビリテーションや介護現場における有床義歯の意義について理解する。

【学習の到達目標】

- ・全部床義歯・部分床義歯の目的、適応症および具備条件を説明できる。
- ・全部床義歯・部分床義歯の構成要素を説明できる。
- ・全部床義歯・部分床義歯の設計原則を説明でき、口腔内診察、検査、診断模型およびエックス線写真等の情報を用いた治療計画手順を経験する。
- ・全部床義歯・部分床義歯の製作過程を説明でき、基本的手技ができる。
- ・全部床義歯・部分床義歯の調整、リライン・リベースおよび修理方法を説明できる。
- ・全部床義歯・部分床義歯装着後のメンテナンスの重要性と内容を説明できる。
- ・顎顔面補綴の目的、適応症および具備条件を説明できる。
- ・顎義歯、舌接触補助床、軟口蓋挙上装置の構造と製法を説明できる。
- ・リハビリテーション医療や介護の現場における有床義歯補綴治療の意義と問題点を説明できる。

【授業形態】

講義資料、講義、参考書を中心として、総合的な理解に努める。

【履修上の注意】

- ・原則として全回出席すること。講義の出欠は毎回確認し、理由なく1/3以上の欠席がある場合、試験の受験を認めない。
- ・指定されたテキストおよびE-learningを用いて、予習をした上で授業に臨むこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/9（木）2限	全部床義歯の印象と咬合採得（小野）	テキスト①第4、5章
2	4/16（木）2限	全部床義歯の咬合採得と咬合器装着（小野）	テキスト①第5、6章
3	4/23（木）2限	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成（小野）	テキスト①第7章
4	4/30（木）2限	全部床義歯の歯肉形成・埋没・重合（小野）	テキスト①第8、9章
5	5/14（木）2限	全部床義歯の研磨・装着・調整（小野）	テキスト①第10、11章
6	5/21（木）2限	全部床義歯のリライン・修理（小野）	テキスト①第12章
7	5/28（木）2限	特殊な有床義歯（堀）	テキスト①第14、16章
8	6/4（木）2限	顎顔面補綴（1）（小野、堀）	「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション」
9	6/11（木）2限	顎顔面補綴（2）（小野、堀）	「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション」
10	6/18（木）2限	部分床義歯の構成要素（長谷川）	テキスト②該当箇所、「パーシャルデンチャーテクニック」
11	6/25（木）2限	部分床義歯の力学的挙動と設計理論（長谷川）	テキスト②該当箇所、「パーシャルデンチャーテクニック」
12	7/2（木）2限	特別講義（池邊）	
13	7/9（木）2限	部分床義歯の予後と管理（長谷川）	テキスト②該当箇所、「パーシャルデンチャーテクニック」
14	7/16（木）2限	義歯の設計演習（1）（堀、長谷川）	
15	7/22（水）2限	義歯の設計演習（2）（堀）	
16	9/3（木）2限	リハビリ・介護の現場での義歯（小野、堀）	「老年歯科医学」 「咀嚼機能アップBOOK」

【成績評価の方法と基準】

記述試験（95%）、授業中の態度評価（5%）により成績を評価する。

【使用テキスト】

- ①市川 哲雄・他編「無菌顎補綴治療学（第3版）」医歯薬出版（10,000円）
②赤川 安正・他編「歯学生のパーシャルデンチャー（第6版）」医歯薬出版（10,000円）

【参考文献】

- 細井 紀雄・他編「コンプリートデンチャーテクニック（第6版）」医歯薬出版（9,000円）
鈴木 哲也 著「よい義歯だめな義歯」クインテッセンス出版（9,600円）
五十嵐 順正・他編「パーシャルデンチャーテクニック（第5版）」医歯薬出版（9,000円）
森戸 光彦・他編「老年歯科医学」医歯薬出版（10,000円）
溝尻 源太郎・他編「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害、摂食・嚥下障害」医歯薬出版（4,800円）
小野 高裕 監修「成人～高齢者向け 咀嚼機能アップBOOK」クインテッセンス出版（4,800円）

【参考Webサイト】

<http://elearn-lhotetsu.dent.niigata-u.ac.jp/>

科 目 名：口腔外科学Ⅰ**担 当 教 員：**小林 正治、高木 律男、小野 和宏、片桐 渉、児玉 泰光、船山 昭典、新美 奏恵、大湊 麗**開 講 番 号：**200DS409**開 講 学 期：**第1学期**水 準：**14**単 位 数：**1単位**対 象 学 部 等：**歯学科4年生**【科目概要】**

口腔顎顔面領域に生じる多種多様な疾患について、組織再建口腔外科分野と顎顔面口腔外科学分野が疾患により分担して担当する。本科目では、口腔外科学総論、検査診断学・臨床検査、炎症性疾患、外傷、嚢胞、先天異常、顎変形症、睡眠呼吸障害について学習する。

【科目のねらい】

それぞれの疾患における原因、病態、症状、検査法、検査所見、診断および治療法的基本的手技、予後経過について理解し、5年次に開講される顎顔面診断学、臨床予備実習、6年次の臨床実習における診断、治療のための基礎となる知識を習得する。

【学習の到達目標】

＜組織再建口腔外科分野＞

- ・疾患の診断に必要な症状の特徴と病名を列記できる。
- ・検査診断・臨床検査の種類と正常値、異常値について説明できる。
- ・嚢胞性疾患の種類と特徴および治療法について説明できる。
- ・顎顔面口腔領域の炎症の原因と治療法を説明できる。
- ・顎変形症の原因と治療法を説明できる。
- ・睡眠呼吸障害の診断と治療法を説明できる。
- ・口腔・顔面領域に症状を呈する症候群を説明できる。

＜顎顔面口腔外科学分野＞

- ・各治療法の概要および創傷治癒過程を説明できる。
- ・疾患の診断に必要な症状の特徴と病名を列記できる。
- ・血液媒介感染症（肝炎、エイズ等）患者の対応を説明できる。
- ・歯の外傷と顎顔面骨折の原因と種類を列記できる。
- ・一般的な骨折の種類と特徴および治癒過程を説明できる。
- ・顎顔面領域の先天異常ならびに口唇裂、口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。
- ・言語発達と言語障害の評価ならびに治療法について説明できる。

【授業形態】

講義を行う。

【履修上の注意】

- ・教科書により予習・復習を行い、用語を理解し暗記する。
- ・スライド、資料を用いた講義に出席する。
- ・担当教員から出題されるレポートを提出する。
- ・各回の準備学習の具体的内容については初回授業時に指示する。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/9（木）1限	総論：診断学・治療学（創傷治癒）（高木：顎外科）	テキスト第2章（口腔外科診断法）参照
2	4/16（木）1限	検査診断学・臨床検査1（片桐：再建外科）	テキスト第2章（臨床検査）参照
3	4/23（木）1限	総論：感染対策・HIV感染症等を含む（高木：顎外科）	テキスト第3章（口腔外科手術総論）参照
4	4/30（木）1限	検査診断学・臨床検査2（片桐：再建外科）	テキスト第2章（臨床検査）参照
5	5/14（木）1限	外傷：軟組織・歯の外傷、顎骨骨折1（児玉：顎外科）	テキスト第9章（損傷）参照
6	5/21（木）1限	外傷：顎骨骨折2（児玉：顎外科）	テキスト第9章（損傷）参照
7	5/28（木）1限	嚢胞性疾患1（船山：再建外科）	テキスト第11章（嚢胞性疾患）参照
8	6/3（水）1限	炎症性疾患1（新美：再建外科）	テキスト第10章（炎症性疾患）参照
9	6/10（水）1限	嚢胞性疾患2（船山：再建外科）	テキスト第11章（嚢胞性疾患）参照
10	6/17（水）1限	炎症性疾患2（新美：再建外科）	テキスト第10章（炎症性疾患）参照
11	6/24（水）1限	先天異常：総論（小野：顎外科）	テキスト第8章（先天異常および発育異常）参照
12	7/1（水）1限	先天異常：口唇裂・口蓋裂、口腔に見られる小奇形（小野：顎外科）	テキスト第8章（先天異常および発育異常）参照

13	7/8 (水) 1限	言語発達と言語紹介 (大湊：顎外科)	テキスト第8章 (先天異常および発育異常) 参照
14	7/15 (水) 1限	顎変形症1 (小林：再建外科)	テキスト第8章 (先天異常および発育異常) 参照
15	9/2 (水) 1限	顎変形症2 (小林：再建外科)	テキスト第8章 (先天異常および発育異常) 参照
16	9/9 (水) 1限	口腔・顔面領域の症候群、睡眠呼吸障害 (小林：再建外科)	テキスト第8章 (先天異常および発育異常) 参照

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (100%) により評価する。試験は、組織再建口腔外科分野 (9/16回) および顎顔面口腔外科学分野 (7/16回) で担当する範囲からそれぞれ実施し、両者とも60点以上の者を合格とする。

【使用テキスト】

野間弘康、瀬戸皖一 編集「標準口腔外科学第4版」医学書院13,750円 (税込)

【参考文献】

参考図書：白砂兼光・古郷幹彦編著「口腔外科学 第3版」医歯薬出版 26,400円 (税込)

科 目 名：口腔外科学Ⅱ**担 当 教 員：**高木 律男、小林 正治、鈴木 一郎、片桐 渉、永田 昌毅、船山 昭典、池田 順行、勝見 祐二**開 講 番 号：**200DS410**開 講 学 期：**第2学期**水 準：**14**単 位 数：**1単位**対 象 学 部 等：**歯学科4年生**【科目概要】**

口腔顎顔面領域に生じる多種多様な疾患について、組織再建口腔外科学分野と顎顔面外科学分野が疾患により分担して担当する。本科目では、腫瘍、顎関節疾患、唾液腺疾患、血液疾患、口腔粘膜疾患、手術学について学習する。
 ※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

それぞれの疾患における原因、病態、症状、検査法、検査所見、診断および治療法的基本的手技、予後経過について理解し、5年次に開講される口腔と全身のかかわり、臨床予備実習、6年次の臨床実習における診断、治療のための基礎となる知識を習得する。

【学習の到達目標】

<組織再建口腔外科学分野>

- ・唾液腺疾患の種類と特徴ならびにそれぞれの治療法について説明できる。
- ・血液疾患の種類と特徴を説明できる。
- ・口腔粘膜疾患の種類と特徴について理解するとともにその治療法を説明できる。
- ・拔牙や歯槽骨整形、消炎手術、腫瘍切除術など各種口腔外科手術の術式と特徴を説明できる。

<顎顔面口腔外科学分野>

- ・エナメル上皮腫などの歯源性腫瘍の種類と特徴、治療を説明できる。
- ・非歯源性良性腫瘍の種類と特徴を説明できる。
- ・エプーリスを含む腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。
- ・白板症を含む前癌病変の種類と特徴を説明できる。
- ・口腔癌の特徴、症状、診断を説明できる。
- ・腫瘍に対する一般的な治療法を説明できる。
- ・顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。
- ・顎関節症の症状と診断基準ならびに治療法について説明できる。
- ・手指と術野の適切な消毒について説明できる。
- ・切開・縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。
- ・歯槽骨整形、インプラント、補綴前外科処置など各種口腔外科手術の術式と特徴を説明できる。

【授業形態】

資料、スライド等を用いて講義を行う。

【履修上の注意】

- ・教科書により予習・復習を行い、用語を理解し暗記する。
- ・スライド、資料を用いた講義に出席する。
- ・担当教員から出題されるレポートを提出する。
- ・各回の準備学習の具体的内容については初回授業時に指示する。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/6（火）1限	腫瘍：歯源性（永田：顎外科）	テキスト第12章（腫瘍および腫瘍類似疾患）参照
2	10/13（火）1限	腫瘍：非歯源性（永田：顎外科）	テキスト第12章（腫瘍および腫瘍類似疾患）参照
3	10/20（火）1限	腫瘍：前癌病変、口腔癌の症状、診断（勝見：顎外科）	テキスト第12章（腫瘍および腫瘍類似疾患）参照
4	10/27（火）1限	腫瘍：口腔癌、肉腫の一般的治療、手術（勝見：顎外科）	テキスト第12章（腫瘍および腫瘍類似疾患）参照
5	11/6（金）1限	腫瘍：分子標的治療、集学的治療、再建（永田：顎外科）	テキスト第12章（腫瘍および腫瘍類似疾患）参照
6	11/10（火）1限	顎関節疾患：総論/各論（池田：顎外科）	テキスト第13章（顎関節疾患）参照
7	11/17（火）1限	顎関節疾患：各論&顎関節症（池田：顎外科）	テキスト第13章（顎関節疾患）参照
8	11/24（火）1限	唾液腺疾患Ⅰ（片桐：再建外科）	テキスト第14章（唾液腺疾患）参照
9	12/1（火）1限	唾液腺疾患（片桐：再建外科）	テキスト第14章（唾液腺疾患）参照

10	12/8 (火)	1 限	血液疾患 (船山：再建外科)	テキスト第16章 (口腔に症状を現す血液疾患及び止血機構の障害) 参照
11	12/15 (火)	1 限	口腔粘膜疾患 (鈴木：再建外科)	テキスト第15章 (口腔粘膜疾患) 参照
12	12/22 (火)	1 限	口腔粘膜疾患 (鈴木：再建外科)	テキスト第15章 (口腔粘膜疾患) 参照
13	1/12 (火)	1 限	手術学1：切開、止血、縫合、歯槽骨整形、小帯伸展術、等 (高木：顎外科)	テキスト第18章 (口腔・顎顔面疾患の手術とその他の治療) 参照
14	1/14 (火)	1 限	手術学2：抜歯、嚢胞摘出術、生検等 (小林：再建外科)	テキスト第18章 (口腔・顎顔面疾患の手術とその他の治療) 参照
15	1/26 (火)	1 限	手術学3：インプラント、補綴のための外科的対応 (星名：顎外科)	テキスト第18章 (口腔・顎顔面疾患の手術とその他の治療) 参照
16	2/2 (火)	1 限	口腔外科学総括 (小林：再建外科)	第1回から15回までの要点確認

注：担当者指名の横にある再建外科・顎外科の記載は、後期試験期間において出題範囲を二つに分ける際の内容を示す。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (100%) により評価する。試験は、組織再建口腔外科分野 (50%) および顎顔面口腔外科学分野 (50%) で担当する範囲からそれぞれ実施し、両者とも60点以上の者を合格とする。

【使用テキスト】

野間 弘康・他編「標準口腔外科学 (第4版)」医学書院 (13,500円)

【参考文献】

白砂 兼光・他編「口腔外科学 (第3版)」医歯薬出版 (24,000円)

科 目 名：口腔病理学

担 当 教 員：田沼 順一、丸山 智、山崎 学、阿部 達也、仙波 伊知郎（非）

開 講 番 号：200DS411

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：3単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

病理学総論で学んだ疾病全般に共通した発症機転と経過や転帰の現象を理解し、個々の顎顔面（口腔）領域における疾患が含まれる病理学各論の基本的理解の復習をもとに、顎顔面および口腔領域に生じる疾患に総論の知識をあてはめながら各疾患の原因、発症機転、経過ならびに転帰について学ぶ。

【科目のねらい】

腫瘍学では腫瘍の一般概念を把握し、腫瘍の生物学的態度の一般性と多様性を理解する。口腔病理学では歯と歯周組織、口腔粘膜、顎骨、唾液腺、頭頸部などの疾患を病理学の側面から理解する。またそれぞれの疾患について学ぶ中で、歯科臨床における病理組織診断の担う役割を把握する。

【学習の到達目標】

- ・腫瘍の発生機序と病因を説明できる。
- ・良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
- ・構造異型性と細胞異型性を説明できる。
- ・上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いを説明できる。
- ・腫瘍の増殖、浸潤、再発、転移について説明できる。
- ・癌遺伝子と癌抑制遺伝子を概説できる。
- ・齶蝕の概念、発症機構および種類を説明できる。
- ・歯周疾患（根尖性・辺縁性）の病因と病態を説明できる。
- ・唾液腺疾患の病因と病態を説明できる。
- ・歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞の病因と病態を説明できる。
- ・口腔粘膜疾患の病因と病態を説明できる。
- ・歯源性腫瘍および非歯源性腫瘍の病因と病態を説明できる。
- ・口腔領域の骨・軟組織の疾患の病因と病態を説明できる。
- ・口腔内の奇形および先天異常の病因と病態を説明できる。
- ・顎顔面領域の症候群を分類および臨床病態を説明できる。
- ・病理組織および細胞診検査のシステムと病理組織検査検体の取り扱い方を説明できる。

【授業形態】

- ・講義を行った上で、その内容に関する実習および演習を行う。

【履修上の注意】

講義・実習中は配付資料と投影される図・写真・ビデオ・表さらに板書を参考に講義内容を筆記して記録する。講義時間内に、講義の概要を完全に理解する。次回の講義までに、配付資料・参考書・雑誌などを利用して講義ノートを作成し、前回の講義の知識を整理しておかなければならない。毎回の講義の積み重ねで知識が体系化されるので、復習が必須であり、自宅での復習には講義時間の少なくとも3倍程度が必要である。受講・復習・実習状況を確認するために講義期間中にノートの提出を求める。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/13（月）2-4限	講義・実習：腫瘍概論（田沼）	テキスト③p80-104、テキスト④p250-297の要点整理
2	4/20（月）2-4限	講義・実習：腫瘍各論（田沼）	テキスト③p80-104、テキスト④p250-297の要点整理
3	4/27（月）2-4限	講義・実習：口腔腫瘍（田沼）	テキスト①p154-155、p169-181の要点整理
4	5/7（木）2-4限	講義・実習：口腔創傷と治癒不全（山崎）	テキスト①p98-120の要点整理
5	5/11（月）2-4限	講義・実習：齶蝕・歯周疾患（田沼）	テキスト①p67-97、テキスト②p53-88の要点整理
6	5/18（月）2-4限	講義：口腔奇形（山崎）・特別講義（仙波）	テキスト①p331-340、テキスト②p89-108の要点整理
7	5/25（月）2-4限	講義・実習：口腔粘膜疾患（丸山）	テキスト①p143-167、テキスト②p109-147の要点整理
8	6/1（月）2-4限	講義・実習：顎顔面部嚢胞（田沼）	テキスト①p182-195、テキスト②p175-204の要点整理

9	6/8 (月) 2-4 限	講義・実習：歯原性腫瘍（山崎）	テキスト①p196-211、テキスト②p205-234の 要点整理
10	6/15 (月) 2-4 限	講義・実習：唾液腺疾患 1（阿部）	テキスト①p271-282、テキスト②p291-304の 要点整理
11	6/22 (月) 2-4 限	講義・実習：唾液腺疾患 2（阿部）	テキスト①p257-270、テキスト②p305-332の 要点整理
12	6/29 (月) 2-4 限	講義・実習：口腔領域骨・軟部疾患（丸山）	テキスト①p212-238、テキスト②p149-174の 要点整理
13	7/6 (月) 2-4 限	演習（全員）	12回目までの講義・実習の復習
14	7/13 (月) 2-4 限	演習（全員）	12回目までの講義・実習の復習
15	7/20 (月) 2-4 限	演習（全員）	12回目までの講義・実習の復習
16	9/7 (月) 2-4 限	試験（講義・実習）（田沼）	15回目までの授業内容の復習

【成績評価の方法と基準】

筆記試験・実習試験（100%）で評価する。講義試験は2/3以上の出席、また実習試験は原則、全項目の履修をもって期末試験の受験資格とする。

【使用テキスト】

- ①田沼順一（編）、新口腔病理学（第2版）、医歯薬出版、¥10,000税別
 - ②高木實（編）、口腔病理アトラス（第3版）、文光堂、¥15,000税別
- 以下のテキストは3年時に購入済み。
- ③小田義直（編）、わかりやすい病理学（第3版）、南江堂、¥2,700税別
 - ④北川昌伸（編）、標準病理学（第5版）、医学書院、¥11,000税別

【参考Webサイト】

口腔病理学分野HP：<http://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~opatho/>

科 目 名：歯内療法学

担 当 教 員：野村 由一郎、竹中 彰治

開 講 番 号：200DS412

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

歯内療法学は、歯の硬組織、歯髄および根尖部歯周組織などの疾病に対する予防と治療を考究する臨床歯学の一分野である。本科目では、歯内療法の基礎的知識に関する講義を行う。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯髄疾患ならびに根尖部歯周組織疾患に適切に対応するために、これらの疾患の病因、病態、診断法、予防、治療術式に関する基礎的知識を習得する。

【学習の到達目標】

- ・歯内療法における診療の流れを概説する。
- ・歯内療法における診査、診断法を列記する。
- ・根管形成の意義と術式を説明する。
- ・根管洗浄、根管貼薬、仮封の意義と術式を説明する。
- ・根管充填の意義と術式を説明する。
- ・歯髄除去療法の適応症と術式を説明する。
- ・根尖性歯周疾患の治療法を説明する。
- ・歯内療法における偶発事故の予防と処置について説明する。
- ・歯内療法と歯周疾患との関連を説明する。
- ・再歯内療法と通常の歯内治療の相違点を説明する。
- ・外科的歯内療法の種類と適応症を説明する。
- ・歯の外傷、歯根吸収と歯内療法との関連を説明する。
- ・歯内療法における応急処置を説明する。

【授業形態】

受動的教授による講義を行う。

【履修上の注意】

- ・教科書を予習、復習すると共に、関連する講義（特に歯の形態、齲蝕学）についての知識を参照すること。
- ・必ずオリジナルプリントのPDFファイルを事前にダウンロードして予習をして講義に備えること。なお、ファイルはう蝕学分野のHPに掲載する。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/1（木）4限	総論、診査・診断法（野村）	テキストP64-85の要点整理
2	10/1（木）5限	根管形成とその使用材料・薬剤（野村）	テキストP123-144の要点整理
3	10/8（木）4限	根管充填と根管治療の予後（野村）	テキストP145-162の要点整理
4	10/8（木）5限	歯髄除去療法（野村）	テキストP102-114の要点整理
5	10/15（木）4限	根尖性歯周疾患の治療法（野村）	テキストP115-122、205-209の要点整理
6	10/15（木）5限	応急処置（竹中）	テキストP244-249の要点整理
7	10/29（木）4限	歯内歯周疾患（竹中）	テキストP210-217の要点整理
8	10/29（木）5限	偶発事故とその対策（野村）	テキストP163-178の要点整理
9	11/5（木）4限	再歯内療法、外科的歯内療法（野村）	テキストP180-187、218-229の要点整理
10	11/5（木）5限	歯の外傷、歯根吸収（野村）	テキストP188-204の要点整理
11	11/12（木）4限	筆記試験（竹中）	1～10回の授業内容の復習

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（論述60%、客観40%）により「学習の到達目標」の達成度を評価する。

【使用テキスト】

興地 隆史・他編「エンドドンティクス（第5版）」永末書店（9,000円）

【参考Webサイト】

う蝕学分野HP：<https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~restend/lecture/>

科 目 名：歯内療法学実習

担 当 教 員：野村 由一郎、枝並 直樹

開 講 番 号：200DS413

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

歯内療法学は、歯の硬組織、歯髄および根尖部歯周組織などの疾病に対する予防と治療を考究する臨床歯学の一分野である。本科目では、実習から歯内療法で必要とする歯の解剖学的学習を含めた基本的術式を学修する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯髄疾患ならびに根尖部歯周組織疾患に適切に対応するために、各歯牙の解剖学的特徴を理解する。さらに、これらの疾患に対する基本的な術式（髄腔開拓、根管形成および根管充填）を修得する。また、歯科用実体顕微鏡の基本操作を修得する。

【学習の到達目標】

- ・各歯牙の歯内療法を行う上で必要となる解剖学的特徴について説明することができる。
- ・歯内療法の基本的な一連の操作（髄腔開拓、根管形成、根管貼薬、根管充填および根管充填材除去）ができる。
- ・歯科用実体顕微鏡の基本操作ができる。

【授業形態】

講義を行った上で、その内容に関する実習を行う。

【履修上の注意】

- ・教科書やプリントを用いて歯内療法学の内容を復習して授業に臨むこと。
- ・実習ノートは歯学分野のホームページに掲載するので、各自でダウンロードし、予習をした上で授業に臨むこと。
- ・授業後には必ず復習をし、要点を整理しておくこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	11/12（木）5限	実習器具貸与、ブローチ綿花作製	歯内療法学実習ノート P1-4 による手技確認
2	11/19（木）4-5限	髄腔開拓（根管口明示まで）（人工歯11、46）	歯内療法学実習ノート P5-10による手技確認
3	11/26（木）4-5限	人工歯顎模型実習（髄腔開拓・根管形成・根管充填・仮封まで）（人工歯11）	歯内療法学実習ノート P11-23による手技確認（上顎前歯の歯内療法）
4	12/3（木）4-5限	人工歯顎模型実習（髄腔開拓・根管形成・根管充填・仮封まで）（人工歯44）	エンドドンティクス第5版 P123-162 歯内療法学実習ノート P11-23による手技確認（下顎小白歯の歯内療法）
5	12/10（木）4-5限	人工歯顎模型実習（髄腔開拓・根管形成・根管充填・仮封まで）（人工歯25）	エンドドンティクス第5版 P123-162 歯内療法学実習ノート P11-23による手技確認（上顎小白歯の歯内療法）
6	12/17（木）4-5限	人工歯顎模型実習（髄腔開拓・根管形成・根管貼薬・仮封まで）（人工歯26）	エンドドンティクス第5版 P123-162 歯内療法学実習ノート P11-23による手技確認（上顎大臼歯の歯内療法）
7	12/24（木）4-5限	歯科用実体顕微鏡実習（抜去歯の観察）	エンドドンティクス第5版 P123-162 歯内療法学実習ノート P26
8	1/7（木）4-5限	人工歯顎模型実習（根管洗浄・根管充填・仮封まで）（人工歯26）	エンドドンティクス第5版 P230-235 第6回実習の続きを行う
9	1/21（木）4-5限	人工歯顎模型実習（髄腔開拓・根管形成・根管貼薬・仮封まで）（人工歯36）	歯内療法学実習ノート P11-23による手技確認（下顎大臼歯の歯内療法）
10	1/28（木）4-5限	実習試験	エンドドンティクス第5版 P123-162 歯内療法の一連の操作の確認
11	2/4（木）4-5限	根管充填材除去（人工歯11）、実習総括	エンドドンティクス第5版 P180-187

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（20%）および実施試験（80%）によって評価する。試験は歯内療法を行う上で必要とされる知識の修得、ならびに治療に関する一連の操作の習得を確認するもので、両者とも60点以上の者を合格とする。なお、出欠状況も考慮するが、出席による加点は行わない。

【使用テキスト】

指定しない。実習ノートをホームページに掲載する。

【参考文献】

興地 隆史・他編「エンドドンティクス（第5版）」永末書店（9,000円）

勝海 一郎・他編「歯内治療学（第5版）」医歯薬出版（10,000円）

【参考Webサイト】

う蝕学分野HP：<https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~restend/lecture/>

科 目 名：歯科矯正学

担 当 教 員：竹山 雅規、齋藤 功、丹原 惇、高橋 功次朗、大竹 正紀、坂上 馨、北見 公平

開 講 番 号：200DS414

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

「成長発育学」で学んだ不正咬合の病態把握と臨床的対処法をもとに、与えられた患者の検査資料を使用して計測・分析等を行い、不正咬合の診断・治療計画の立案を行う。また、矯正治療に必要な装置の作用機序を学び、実際に矯正装置を作製する実習を行う。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

正常咬合の理解の上に立って、不正咬合を把握し、不正咬合を診断するための各種診査、分析方法を理解する。また、不正咬合に対する治療法および矯正治療に用いる矯正装置について理解し、矯正装置の作製技能を習得する。

【学習の到達目標】

- ・矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。
- ・リンガルアーチの使途と作製法を説明できる。
- ・マルチブラケット装置の使途と使用法を説明できる。
- ・セクショナルアーチのワイヤベンディングができる。
- ・保定装置の使途と作製法を説明できる。
- ・矯正治療に必要な力学を説明できる。
- ・矯正治療によって起こる生体の反応を説明できる。
- ・矯正治療（第一期、第二期）を説明できる。
- ・矯正用材料の特性を説明できる。
- ・他科との共同治療を説明できる。

【授業形態】

矯正装置の製作実習、グループワークによる症例分析演習、矯正治療に関する講義を行う。

【履修上の注意】

- ・事前に配信される資料を必ず熟読しておくこと。
- ・矯正装置の製作実習に必要な材料や切削器具類を忘れないこと。
- ・症例分析では計測用定規を持参すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/14（水）3限	実習概要説明 実習器具配布	使用する器具、プライヤー類について事前配信資料にて確認しておく。
2	10/14（水）4限	自在鉋着1（前班）舌側弧線装置1（後班）	自在鉋着（課程1、2）、舌側弧線装置（課程1-4）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
3	10/21（水）3限	舌側弧線装置1（前班）自在鉋着1（後班）	自在鉋着（課程1、2）、舌側弧線装置（課程1-4）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
4	10/21（水）4限	自在鉋着2	自在鉋着（課程3-5）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
5	10/28（水）3限	舌側弧線装置2	舌側弧線装置（課程5-13）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
6	10/28（水）4限	舌側弧線装置3	舌側弧線装置（課程5-13）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
7	11/4（水）3限	舌側弧線装置4	舌側弧線装置（課程5-13）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
8	11/4（水）4限	舌側弧線装置5	舌側弧線装置（課程5-13）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
9	11/11（水）3限	舌側弧線装置5	舌側弧線装置（課程5-13）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
10	11/11（水）4限	舌側弧線装置6	舌側弧線装置（課程5-13）について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。

11	11/18 (水) 3 限	ワイヤベンディング	ワイヤベンディング (課程 1) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
12	11/18 (水) 4 限	マルチブラケット装置 1	マルチブラケット装置 (課程 1-2) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
13	11/25 (水) 3 限	マルチブラケット装置 2	マルチブラケット装置 (課程 2) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
14	11/25 (水) 4 限	マルチブラケット装置 3	マルチブラケット装置 (課程 2) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
15	12/2 (水) 3 限	マルチブラケット装置 4	マルチブラケット装置 (課程 2) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
16	12/2 (水) 4 限	マルチブラケット装置 5	マルチブラケット装置 (課程 2) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
17	12/9 (水) 3 限	床矯正装置 1	床矯正装置 (課程 1、2) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
18	12/9 (水) 4 限	床矯正装置 2	床矯正装置 (課程 1、2) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
19	12/16 (水) 3 限	床矯正装置 3	床矯正装置 (課程 3、4) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
20	12/16 (水) 4 限	床矯正装置 4	床矯正装置 (課程 3、4) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
21	12/23 (水) 3 限	床矯正装置 5	床矯正装置 (課程 5、6) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
22	12/23 (水) 4 限	床矯正装置 6	床矯正装置 (課程 5、6) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
23	1/13 (水) 3 限	症例分析 1	症例分析 (セファロトレース、分析、模型計測など) について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
24	1/13 (水) 4 限	症例分析 2	診断について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
25	1/20 (水) 3 限	症例分析 3	治療計画立案について事前配信資料にて実習内容を確認しておく。
26	1/20 (水) 4 限	症例分析 4	症例分析、診断、治療計画についての発表の準備を行う。
27	1/27 (水) 3 限	矯正装置の復習・矯正用材料の特性 (齋藤)	矯正装置・矯正用材料の特性について事前配信資料を熟読しておく。
28	1/27 (水) 4 限	他科との協同治療 (齋藤)	他科との共同治療について事前配信資料にて実習内容を熟読しておく。
29	2/4 (木) 1 限	実習調整日	
30	2/4 (木) 2 限	実習調整日	

【成績評価の方法と基準】

実習の製作物 (83%) および症例分析の発表・レポート (17%) で総合的に評価する。なお、いずれも指定された提出日より遅れて提出した場合は減点の対象とする。

出席は 3/4 以上必要で、出欠状況を考慮するが、出席による加点は行わない。

【使用テキスト】

事前に配信される資料

【参考文献】

後藤 滋巳・他編著「歯科矯正学 第 6 版」医歯薬出版 (13,000円)

【参考Webサイト】

新潟大学歯学部実習ビデオライブラリー http://www.dent.niigata-u.ac.jp/streaming/video_lib_2007/index.html

科 目 名：成長発育学

担 当 教 員：齋藤 功、早崎 治明、齊藤 一誠、大島 邦子、岩瀬 陽子、丹原 惇、中村 由紀、大竹 正紀

開 講 番 号：200DS415

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：2単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

成長発育学では、人体諸器官および口腔・頭蓋・顎顔面領域の器官の発生、成長発育、加齢による変化とその異常およびそれらに対する治療法について学習する。

また、小児における全身の成長発育および歯・歯列・咬合など咀嚼器官としての形態的・機能的な発育について総合的に学習する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

不正咬合の病態把握と臨床的対処法を理解するために、歯列・咬合に関連した成長発育および不正咬合の診察、検査、分析、診断ならびに治療方針立案に必要な基本的知識と技能を修得する。

【学習の到達目標】

- ・人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を概説できる。
- ・口腔、頭蓋、顎顔面領域の発生を概説できる。
- ・一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。
- ・口腔、頭蓋、顎顔面領域の成長発育異常を説明できる。
- ・口腔、頭蓋、顎顔面領域の成長発育および加齢に伴う変化を説明できる。
- ・小児の身体発育、運動、言葉、情動などの精神発達過程について述べることができる。
- ・小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる。
- ・身体諸器官の発育型について述べることができる。
- ・吸綴から咀嚼への形態的、機能的変化について述べることができる。
- ・乳歯、永久歯の発育、乳歯列から永久歯列への発育過程とその異常について述べることができる。
- ・歯の発育障害と加齢変化の病因と病態を説明できる。
- ・歯列と咬合について説明できる。
- ・正常咬合の概念と成立機序、保持条件を説明できる。
- ・不正咬合によって生じる障害を列挙できる。
- ・不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。
- ・側面セファログラムのトレースができる。
- ・側面セファログラムの分析項目について説明できる。
- ・側面セファログラムの分析結果から顎顔面骨格の特徴を説明できる。
- ・矯正装置の種類、適応症及び作用機序について説明できる。
- ・矯正力に対する生体反応を説明できる。
- ・歯の移動に伴う骨改造現象を説明できる。
- ・矯正歯科治療における抜歯の意義について説明できる。
- ・矯正歯科治療における固定の意味と種類について説明できる。
- ・インプラント（歯科矯正用アンカースクリュー）を固定源とした矯正歯科治療について説明できる。
- ・口腔、顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。
- ・口唇、口蓋裂の病態と治療について概説できる。
- ・矯正歯科治療における保定の意義を説明できる。
- ・矯正歯科治療における偶発症を説明できる。
- ・顎変形症の病態と外科的矯正治療について概説できる。
- ・成人矯正歯科治療の特徴を概説できる。

【授業形態】

講義形式および実習形式の授業を行う。講義では、適宜小テストを行って到達度を確認したり、小グループによる発表、討論形式を取り入れたりする場合がある。講義内容に変更がある場合には適宜連絡する。

【履修上の注意】

- ・口腔・人体解剖学、口腔生理学、歯科理工学など基礎歯学に係わる知識を十分に復習して臨むこと。
- ・歯科矯正学分野担当分については、講義実施2日前までにスライドハンドアウトを配信するので授業前に指定した教科書と対比し概要を把握しておくことが望ましい。また、実習では、理解を深めるためにあらかじめテキストや講義資料に目を通しておくことが望ましい。
- ・小児歯科学担当分については、テキストの該当部分を読んで授業に臨むことが望ましい。なお、講義の際にハンドアウトを配布する。

【授業計画】

回	日時	講義内容 (担当)	準備学習 (予習範囲)
1	4/10 (金) 2限	オリエンテーション、成長発育とは (齋藤功)	・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
2	4/10 (金) 3限	歯科矯正学とは、歯科矯正学の歴史、咬合とは (齋藤功)	・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
3	4/24 (金) 2限	小児歯科の目的と全身の成長・発達 (1) (大島)	・ 歯科矯正学第6版pp.1-7の要点確認。
4	4/24 (金) 3限	全身の成長・発達 (2) (大島)	・ 小児歯科学 (第5版) pp.1-14、24-32に予め目を通す。
5	5/1 (金) 2限	口腔機能の発達 (1)、吸啜の発達 (齋藤一)	・ 当日配布するハンドアウトの要点を確認する。
6	5/1 (金) 3限	口腔機能の発達 (2)、咀嚼機能の獲得 (齋藤一)	・ 小児歯科学 (第5版) pp.14-24に予め目を通す。
7	5/22 (金) 2限	正常咬合と不正咬合 (1) (齋藤功)	・ 当日配布するハンドアウトの要点を確認する。
8	5/22 (金) 3限	不正咬合 (2)・不正咬合の原因 (齋藤功)	・ 小児歯科学 (第5版) pp.46-47に予め目を通す。
9	5/29 (金) 2限	歯の発育と発育障害 (1)、歯の形成とその障害 (中村)	・ 当日配布するハンドアウトの要点を確認する。
10	5/29 (金) 3限	歯の発育と発育障害 (2)、歯の萌出とその障害 (岩瀬)	・ 小児歯科学 (第5版) pp.47-52に予め目を通す。
11	6/5 (金) 2限	歯列・咬合の発育 (早崎)	・ 当日配布するハンドアウトの要点を確認する。
12	6/5 (金) 3限	まとめ・試験 (小児歯科担当分) (早崎)	・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
13	6/12 (金) 2限	側面セファログラムの歴史と意義・トレース実習 (1) (齋藤功・大竹)	・ 歯科矯正学第6版pp.43-57、66-99の要点確認。
14	6/12 (金) 3限	側面セファログラムのトレース実習 (2) (大竹)	・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
15	6/19 (金) 2限	不正咬合による障害・不正咬合の疫学 (齋藤功)	・ 歯科矯正学第6版pp.66-99、100-115の要点確認。
16	6/19 (金) 3限	側面セファログラムのトレース実習 (3) (丹原・大竹)	・ 小児歯科学 (第5版) pp.62-83に予め目を通す。
17	6/26 (金) 2限	頭蓋および顎顔面の発生と成長発育 (1) (齋藤功)	・ 当日配布するハンドアウトの要点を確認する。
18	6/26 (金) 3限	側面セファログラムのトレース実習 (4) (丹原・大竹)	・ 小児歯科学 (第5版) pp.83-90に予め目を通す。
19	7/3 (金) 2限	頭蓋および顎顔面の発生と成長発育 (2) (齋藤功)	・ 当日配布するハンドアウトの要点を確認する。
20	7/3 (金) 3限	側面セファログラムのトレース実習 (5) (丹原・大竹)	・ 小児歯科学 (第5版) pp.91-108に予め目を通す。
21	7/10 (金) 2限	矯正治療における診察・検査 (齋藤功)	・ 当日配布するハンドアウトの要点を確認する。
22	7/10 (金) 3限	側面セファログラムのトレース実習 (6) (丹原・大竹)	・ 上記、小児歯科学分野担当分
23	7/17 (金) 2限	矯正治療における診断、矯正力と生体反応 (1) (齋藤功)	・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
			・ 歯科矯正学第6版pp.157-169を読んで予習する。
			・ 歯科矯正学第6版pp.157-169について内容確認。
			・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
			・ 歯科矯正学第6版pp.8-13、57-65、85-87の要点確認。
			・ 歯科矯正学第6版pp.157-169について内容確認。
			・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
			・ 6/12の講義内容についてよく復習する。
			・ 歯科矯正学第6版pp.14-42、43-57の要点確認。
			・ 歯科矯正学第6版pp.157-169について内容確認。
			・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
			・ 6/19の講義内容についてよく復習する。
			・ 歯科矯正学第6版pp.14-42の要点確認。
			・ 歯科矯正学第6版pp.157-169について内容確認。
			・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
			・ 7/3の講義内容についてよく復習する。
			・ 歯科矯正学第6版pp.135-174の要点確認。
			・ 歯科矯正学第6版pp.157-169について内容確認。
			・ 予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通す。
			・ 7/10の講義内容についてよく復習する。
			・ 歯科矯正学第6版pp.122-134、135-174の要点確認。

24	7/17 (金) 3限	トレース症例の発表、討論と総括 (齋藤功・丹原)	・トレースの結果について整理、考察し、授業当日の討論に備える。
25	7/21 (火) 2限	矯正力と生体反応 (2)、拔牙と固定 (齋藤功)	・予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通すとともに、7/17の講義内容についてよく復習する。
26	7/21 (火) 3限	矯正装置について (齋藤功)	・歯科矯正学第6版pp.122-134、176-182、200-207の要点確認。
27	8/31 (月) 2限	乳歯列期・混合歯列期の治療 (齋藤功)	・予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通すとともに、7/17の講義内容についてよく復習する。
28	8/31 (月) 3限	永久歯列期の治療 (1) (齋藤功)	・歯科矯正学第6版pp.215-262の要点確認。
29	9/4 (金) 2限	永久歯列期の治療 (2)、外科的矯正治療 (齋藤功)	・予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通すとともに、7/21の講義内容についてよく復習する。
30	9/4 (金) 3限	先天異常児の成長発育と咬合 (齋藤功)	・歯科矯正学第6版pp.263-284の要点確認。
31	9/11 (金) 2限	保定・矯正治療に伴う偶発症 (齋藤功)	・予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通すとともに、7/21の講義内容についてよく復習する。
32	9/11 (金) 3限	成人矯正症例 (歯の移植・インプラント併用)・総括と質疑 (齋藤功)	・歯科矯正学第6版pp.285-326の要点確認。
			・予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通すとともに、8/31の講義内容についてよく復習する。
			・歯科矯正学第6版pp.285-326の要点確認。
			・予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通すとともに、8/31の講義内容についてよく復習する。
			・歯科矯正学第6版pp.102-107、336-344の要点確認。
			・予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通すとともに、9/4の講義内容についてよく復習する。
			・歯科矯正学第6版pp.327-335、376-383の要点確認。
			・予め配信する講義内容に関するハンドアウトに目を通すとともに、9/4の講義内容についてよく復習する。
			・講義・実習をとおしての疑問点について整理し、当日の質疑に備える。

【成績評価の方法と基準】

歯科矯正学分野担当分 (75%) と小児歯科学分野担当分 (25%) それぞれにおいて以下の評価を行う。

〈歯科矯正学分野担当分〉

適宜小テストを行って形成的に評価するとともに、レポート (20%) および期末筆記試験 (80%) により総括的に評価する。

〈小児歯科学分野担当分〉

講義の進行に合わせて、適宜小テスト等により形成的評価を行い、総括的評価として筆記試験 (100%) を課す。

なお、小児歯科学分野担当分の講義および歯科矯正学分野担当分の講義 (実習形式を含む) に、それぞれ2/3以上の出席が必要となる。

【使用テキスト】

後藤 滋巳・他編著「歯科矯正学 第6版」医歯薬出版 (13,000円)

白川 哲夫・他編著「小児歯科学 第5版」医歯薬出版 (13,000円)

【参考文献】

〈歯科矯正学分野担当関連〉

下野 正基・他編著「歯の移動の臨床バイオメカニクス」医歯薬出版 (13,000円)

戸塚 靖則・他監修「口腔科学」朝倉書店 (27,000円)

〈小児歯科学分野担当関連〉

新谷 誠康・他編「小児歯科学 ベーシックテキスト&クリニカルテキスト」永末書店 (17,000円)

朝田 芳信・他編著「小児の口腔科学 第5版」学研書院 (11,000円)

【参考Webサイト】

歯科矯正学分野HP (講義資料) <http://www.dent.niigata-u.ac.jp/ortho/student/>

科 目 名：小児歯科学

担 当 教 員：早崎 治明、齊藤 一誠、大島 邦子、岩瀬 陽子、中村 由紀、中島 努

開 講 番 号：200DS416

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：2単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

小児歯科学は成長・発達の途上にある小児を対象とした臨床的な歯科学である。本科目では小児歯科の専門性を認められた、あるいは、臨床経験豊富な教員等による小児歯科学の講義と実習により、臨床歯科医師としての小児の歯科診療および歯科的管理が可能な基本的知識と技術を習得する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

小児歯科疾患について、適切な診断・予防・治療に必要な知識と方法を理解し習得する。また、これらを実践するために必要な歯科領域に関連する基本的な態度および技能を習得する。

【学習の到達目標】

- ・小児の齲蝕の特徴とその予防法、治療法を説明できる。
- ・歯列咬合の成長・発達の過程とその異常を理解しその治療法を説明できる。
- ・成長発育期の咬合誘導の概念とその実際を説明できる。
- ・全身疾患を持つ小児の歯科治療のポイントを説明できる。
- ・小児の口腔健康管理の方法を説明できる。
- ・小児患者への対応法のポイントを説明できる。

【授業形態】

主に資料、スライドを用いた講義および模型実習を行う。また先回の内容について確認テストを行う。

【履修上の注意】

- ・予め使用テキスト・参考図書を参照した上で授業に臨むこと。
- ・授業後は配布する資料等を用いて復習すること。なお、次回に確認テストを行う。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/1（木）1限	小児歯科学総論（早崎）	テキスト①第1章の要点整理
2	10/1（木）2限	小児の歯科診療の流れ（早崎）	テキスト①第9章、テキスト②Part I 第1章、Part II 第1章～第3章の要点整理
3	10/8（木）1限	小児歯科への歯科的対応法（中島）	テキスト①第8章、テキスト②Part II 第7章の要点整理
4	10/8（木）2限	歯科治療上注意すべき全身疾患（岩瀬）	テキスト①第19章、テキスト②Part II 第17章の要点整理
5	10/15（木）1限	小児の口腔保健（大島）	テキスト①第17章の要点整理
6	10/15（木）2限	小児歯科診療の実際（早崎）	テキスト②Part IIIの要点整理
7	10/22（木）1限	口腔軟組織疾患および顎疾患（早崎）	テキスト①第14章の要点整理
8	10/22（木）2限	小児の外傷（中島）	テキスト①第13章、テキスト②Part I 第11章、Part II 第12章の要点整理
9	10/29（木）1限	咬合誘導（1）（齊藤）	テキスト①第16章、テキスト②Part I 第9、10章、Part II 第13章の要点整理
10	10/29（木）2限	咬合誘導（2）（齊藤）	テキスト①第16章、テキスト②Part I 第9、10章、Part II 第13章の要点整理
11	11/5（木）1限	外科処置・医療安全（早崎）	テキスト①第10、15章、テキスト②Part II 第11章、第19章の要点整理
12	11/5（木）2限	小児歯科・症例検討（1）（早崎）	テキスト②Part IIIの要点整理
13	11/12（木）1限	小児の歯周疾患（仲野和彦）	テキスト①第12章の要点整理
14	11/12（木）2限	小児のう蝕（仲野道代）	テキスト①第11章Ⅰ、Ⅱの要点整理
15	11/19（木）1限	う蝕治療の前処置・歯冠修復法（乳歯）（中村）	テキスト①第11章Ⅲ、Ⅳ、テキスト②Part I 第4、5章、Part II 第8章、第9章の要点整理
16	11/19（木）2限	歯冠修復法（永久歯）・歯内療法（診査・診断）（中村）	テキスト①第11章Ⅳ、Ⅴ、テキスト②Part I 第6章、Part II 第9章、第10章の要点整理
17	11/26（木）1限	歯内療法（処置法）（中村）	テキスト①第11章Ⅴ、テキスト②Part I 第6章、Part II 第10章の要点整理

18	11/26 (木) 2 限	診断・治療方針・治療計画 (1) (中島)	テキスト①第9章、テキスト②Part I 第2章、Part II 第4章の要点整理
19	12/3 (木) 1 限	診断・治療方針・治療計画 (2) (中島)	テキスト①第9章、テキスト②Part I 第2章、Part II 第4章の要点整理
20	12/3 (木) 2 限	小児歯科・症例検討 (2) (中島)	テキスト②Part III の要点整理
21	12/10 (木) 1 限	小児歯科学・まとめ (早崎)	講義の範囲
22	12/17 (木) 1 限	模型実習・オリエンテーション (早崎・中村)	テキスト①第11章、テキスト②Part I 第4章の要点整理
23	12/24 (木) 1 限	模型実習・生活歯髄切断法 (1) (中村・他)	テキスト①第11章V、テキスト②Part I 第6章、Part II 第10章の要点整理
24	12/24 (木) 2 限	模型実習・生活歯髄切断法 (2) (中村・他)	テキスト①第11章V、テキスト②Part I 第6章、Part II 第10章の要点整理
25	1/7 (木) 1 限	模型実習・乳歯冠 (1) (中村・他)	テキスト①第11章IV、テキスト②Part I 第7章、Part II 第9章の要点整理
26	1/7 (木) 2 限	模型実習・乳歯冠 (2) (中村・他)	テキスト①第11章IV、テキスト②Part I 第7章、Part II 第9章の要点整理
27	1/21 (木) 1 限	模型実習・作業用模型作成 (中村・他)	テキスト①第16章V、テキスト②Part I 第9章の要点整理
28	1/21 (木) 2 限	模型実習・ワイヤーベンディング (中村・他)	テキスト①第16章V、テキスト②Part I 第9章の要点整理
29	1/28 (木) 1 限	模型実習・クラウンループ (1) (中村・他)	テキスト①第16章V、テキスト②Part I 第9章の要点整理
30	1/28 (木) 2 限	模型実習・クラウンループ (2) (中村・他)	テキスト①第16章V、テキスト②Part I 第9章の要点整理

【成績評価の方法と基準】

実習における態度ならびに製作物 (20%)、確認テストおよび講義での質疑 (20%)、筆記試験 (60%) により「学習の到達目標」を総合的に評価する。試験では講義、実習、使用テキストおよび配布テキストのすべてを試験対象範囲とする。

【使用テキスト】

- ①白川 哲夫・他編「小児歯科学 (第5版)」医歯薬出版 (13,000円)
- ②前田 隆秀・他編「小児歯科学 基礎・臨床実習 (第2版)」医歯薬出版 (9,400円)

【参考文献】

- 朝田 芳信・他編「小児の口腔科学 (第5版)」学研書院 (11,000円)
- 新谷 誠康・他編「第2版 小児歯科学ベーシックテキスト&クリニカルテキスト」永末書店 (17,000円)

科 目 名：障害者歯科学

担 当 教 員：早崎 治明、高橋 英樹、齊藤 一誠、大島 邦子、岩瀬 陽子、中村 由紀、中島 努

開 講 番 号：200DS417

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

障害者は障害者基本法により「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）、その他の心身の機能の障害がある者であって、障害および社会的障壁により継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態にある者」と定義され、障害者歯科学は、この障害者および障害児を含め、歯科保健指導や歯科治療に際し特別な配慮や工夫、知識と技術をもって対応する必要がある人々を対象とする臨床的歯科学である。本講義では、障害者歯科の専門性を認められた、あるいは臨床経験豊富な教員等による講義により、臨床歯科医師としてこれらスペシャルニーズのある人に行われるべき歯科診療と歯科保健に関する基本的知識と技術を習得する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

スペシャルニーズを有する人の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解し、その歯科診療と歯科保健の実践を習得する。

【学習の到達目標】

- ・スペシャルニーズおよびスペシャルニーズのある人を説明できる。
- ・健康、疾病と障害の概念を説明できる。
- ・障害者のQOLとノーマライゼーションを説明できる。
- ・障害者とその家族の心理および信頼関係の構築について説明できる。
- ・障害者の保健・医療・福祉、介護、教育の仕組みについて説明できる。
- ・障害者歯科における地域医療と医療連携、チーム医療を説明できる。
- ・正常発達と発達障害の特徴と評価法を説明できる。
- ・発達障害者の口腔の特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
- ・身体障害と運動障害の特徴を説明できる。
- ・身体・運動障害者の口腔の特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
- ・精神および行動障害の特徴を説明できる。
- ・精神および行動障害者の口腔の特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
- ・感覚障害の特徴を説明できる。
- ・感覚障害者の口腔の特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
- ・歯科的に重要な症候群の特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
- ・歯科的に重要な全身疾患の特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
- ・スペシャルニーズのある人への歯科治療に必要な行動調整法を説明できる。
- ・スペシャルニーズのある人への歯科保健・口腔衛生管理を説明できる。
- ・スペシャルニーズのある人への歯科治療上の留意点を説明できる。

【授業形態】

主に資料、スライドを用いた講義を行う。また先回の内容について確認テストを行う。

【履修上の注意】

- ・予め使用テキスト・参考図書を参照した上で授業に臨むこと。
- ・授業後は配布する資料等を用いて復習すること。なお、次回に確認テストを行う。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/29（木）3限	障害者歯科学総論・地域連携・在宅診療（早崎）	テキスト①Ⅰ編1章、2章の要点整理
2	11/5（木）3限	障害各論—精神発達の障害、脳性麻痺・重症心身障害（中島）	テキスト①Ⅱ編1章、2章の要点整理
3	11/12（木）3限	障害各論—神経運動障害（脳性麻痺以外）・感覚障害・音声発語障害（大島）	テキスト①Ⅱ編2章～4章の要点整理
4	11/19（木）3限	障害各論—摂食障害・精神障害・症候群（大島）	テキスト①Ⅱ編5章～7章の要点整理
5	11/26（木）3限	障害各論—難病 障害者の歯科治療（齊藤）	テキスト①Ⅱ編7章、Ⅲ編3章の要点整理
6	12/3（木）3限	障害者歯科の行動調整、リスク評価と安全管理（岩瀬）	テキスト①Ⅲ編1章、4章の要点整理
7	12/10（木）2限	障害者の健康支援（中村）	テキスト①Ⅲ編2章の要点整理
8	12/17（木）2限	障害者と社会福祉（高橋）	テキスト①Ⅰ編2章の要点整理

【成績評価の方法と基準】

確認テストおよび講義時質疑（30%）、試験（70%）により「学習の到達目標」を総合的に評価する。試験は講義および配布テキストのすべてを試験対象範囲とする。

【使用テキスト】

①日本障害者歯科学会 編「スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科（第2版）」医歯薬出版（9,500円）

【参考文献】

②白川 哲夫・他編「小児歯科学（第5版）」医歯薬出版（13,000円）

科 目 名：加齢歯科学

担 当 教 員：井上 誠、辻村 恭憲、伊藤 加代子、木村 慎二（医）、小山 論（医）、渡部 守（非）、宮岡 洋三（非）

開 講 番 号：200DS418

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

全身ならびに顎口腔系の加齢に伴う形態学的・機能的変化ならびに高齢者に特有の疾患に伴うこれらの変化を理解し、超高齢社会における高齢者を取り巻く歯科口腔保健に関わる社会環境やその問題点を集学的に学修する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

超高齢社会における歯科医の役割をはたすため、老年患者のもつ生物学的特徴を正しくとらえて、これを理解する。超高齢社会における歯科医療体制やその問題点およびその解決に向けた基礎的な知識を修得する。

【学習の到達目標】

- ・生物学加齢変化と病的加齢変化について説明する。
- ・各器官、各組織の老化ならびに機能の加齢変化について説明する。
- ・顎口腔領域の加齢変化について説明する。
- ・高齢者を取り巻く社会的環境について説明する。
- ・高齢者の精神・心理的背景について説明する。
- ・高齢者にみられる全身疾患および全身状態を説明する。
- ・高齢者の栄養と口腔保健について説明する。

【授業形態】

講義ならびに課題に対するグループ単位での発表を行う。講義では前回の内容について小テストにてその復習を行う。

【履修上の注意】

- ・口腔機能に関する生理学の知識があることが望ましい。
- ・高齢者の社会福祉に興味をもって臨むことが望ましい。
- ・講義資料は分野HPに掲載するため、各自でダウンロードし一読してから授業に臨むこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/6（火）2限	総論（井上）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
2	10/13（火）2限	高齢者の特性（井上）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
3	10/20（火）2限	高次機能の加齢変化（井上）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
4	10/27（火）2限	顎口腔系の加齢変化（味覚と唾液）（伊藤）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
5	11/6（金）2限	周辺機能の加齢変化（咳嗽・呼吸）（辻村）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
6	11/10（火）2限	オーラルフレイル（井上）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
7	11/17（火）2限	顎口腔系の加齢変化（摂食機能）（井上）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
8	11/24（火）2限	超高齢社会における歯科医療のあり方（大内）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
9	12/1（火）2限	超高齢社会における地域歯科医療（渡部）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
10	12/8（火）2限	課題提供（井上）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
11	12/15（火）2限	高齢者の身体機能（木村）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
12	12/22（火）2限	高齢者の栄養（小山）	事前に配布された講義プリントを前もって十分に読んでおくこと。
13	1/12（火）2限	課題提供とディスカッション（井上）	ディスカッションの準備
14	1/19（火）2限	課題発表1（全員）	課題発表の準備
15	1/26（火）2限	課題発表2（全員）	課題発表の準備
16	2/2（火）2限	課題発表3（全員）	課題発表の準備

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（90％）ならびに毎回の小テスト、態度および課題の発表内容（10％）により評価する。

【使用テキスト】

指定しない。講義資料をHPに掲載する。

【参考文献】

大内 尉義・他編「新老年学（第3版）」東京大学出版社（40,000円）

日本老年医学会 編「老年医学テキスト（改訂第3版）」メジカルビュー社（7,000円）

佐藤 裕二・他編「よくわかる高齢者歯科」永末書店（8,500円）

森戸 光彦・他編「老年歯科医学」医歯薬出版（10,000円）

【参考Webサイト】

<http://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~dysphagia/education/dentistry/index.html>

科 目 名：歯科麻酔学

担 当 教 員：瀬尾 憲司、岸本 直隆、田中 裕、弦巻 立、倉田 行伸

開 講 番 号：200DS419

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

基本的な生命活動である呼吸、循環、代謝などの機能を理解することにより、臨床的な正常な状態と異常を理解する。また歯科診療における痛みの管理法としての局所麻酔法を理解し、その原理、方法、薬理、臨床手技から合併症とその対処法を理解する。さらに全身麻酔法と精神鎮静法に必要な基本的知識を習得する。
※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯科治療を安全に行うために、歯科治療の侵害性とそれに対する生体の反応を理解することを目的とする。そのためには呼吸・循環をはじめとして基本的な「生きている」ということを理解する。そして疼痛管理としての局所麻酔法、さらに全身管理法としての全身麻酔法・精神鎮静法などを学習する。

【学習の到達目標】

- ・生きていることの意味と生体の調節系を理解する。
- ・歯科治療による生体へのストレスを理解する。
- ・麻酔管理に必要な基礎知識を理解する。
- ・全身麻酔・局所麻酔の概要とその適応を理解する。
- ・麻酔管理に必要な薬理学的知識を理解する。
- ・精神鎮静法の概要と理論を理解する。

【授業形態】

資料やスライドを用いて講義を行う。

【履修上の注意】

- ・講義へは必ず出席すること。
- ・講義中に出される小テストやレポートの提出すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/5（月）1限	気道と麻酔管理（瀬尾）	テキスト第2章該当部分の要点整理
2	10/12（月）1限	血液ガス交換（瀬尾）	テキスト第2章該当部分の要点整理
3	10/19（月）1限	血液酸塩基・電解質平衡（瀬尾）	テキスト第2章該当部分の要点整理
4	10/26（月）1限	局所麻酔法：特徴と目的・種類（田中）	テキスト第3章該当部分の要点整理
5	11/2（月）1限	循環の生理（瀬尾）	テキスト第2章該当部分の要点整理
6	11/9（月）3限	局所麻酔法：薬剤と適応（田中）	テキスト第3章該当部分の要点整理
7	11/16（月）1限	局所麻酔法：実施法と合併症（田中）	テキスト第3章該当部分の要点整理
8	11/30（月）1限	精神鎮静法：特徴と目的・種類（弦巻）	テキスト第4章該当部分の要点整理
9	12/7（月）1限	精神鎮静法：薬剤と適応（弦巻）	テキスト第4章該当部分の要点整理
10	12/14（月）1限	精神鎮静法：周術期管理（弦巻）	テキスト第4章該当部分の要点整理
11	12/21（月）1限	全身麻酔法：種類と生体反応（岸本）	テキスト第5章該当部分の要点整理
12	1/14（木）1限	全身麻酔薬と薬物動態（弦巻）	テキスト第5章該当部分の要点整理
13	1/18（月）1限	全身麻酔法：モニター・器械（岸本）	テキスト第5章該当部分の要点整理
14	1/25（月）1限	全身麻酔法：適応と禁忌（岸本）	テキスト第5章該当部分の要点整理
15	2/1（月）1限	全身疾患と歯科治療（倉田）	テキスト第6章該当部分の要点整理
16	2/8（月）1限	歯科治療で注意する薬物（弦巻）	テキスト第6章該当部分の要点整理

【成績評価の方法と基準】

定期試験である筆記試験（100%）を行い、その点数によって合否を決定する。しかし出席日数が足りていることが原則であって、不足している場合には合否の決定は行わない。

【使用テキスト】

福島 和昭 監修「歯科麻酔学（第8版）」医歯薬出版（13,000円）

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

科 目 名：歯科放射線学

担 当 教 員：林 孝文、西山 秀昌、勝良 剛詞

開 講 番 号：200DS420

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

歯科医療において、放射線を有効かつ安全に利用し、適切な画像検査と診断を行うために必要な臨床的知識を修得する。
※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯・口腔顎顔面領域の画像検査を適切に行うために、基本的な知識を修得する。また、適切な歯科医療を行うために、歯・口腔顎顔面領域の画像診断能力を修得する。加えて、口腔顎顔面領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理の重要性を認識するために、放射線治療の実践を理解する。

【学習の到達目標】

- ・顎顔面領域の画像診断に必要なエックス線像の基礎的事項を概説する。
- ・口内法エックス線撮影の種類および適応を説明する。
- ・パノラマエックス線撮影の種類および適応を説明する。
- ・頭部エックス線撮影の種類および適応を説明する。
- ・齲蝕、歯髄・根尖性歯周組織疾患、歯周疾患の診断に必要な画像検査法を列挙し、特徴的な画像所見を説明する。
- ・顎骨とその周囲の炎症の診断に必要な画像検査法を列挙し、特徴的な画像所見を説明する。
- ・顎骨の嚢胞と腫瘍の診断に必要な画像検査法を列挙し、特徴的な画像所見を説明する。
- ・口腔の悪性腫瘍の診断に必要な画像検査法を列挙し、特徴的な画像所見を説明する。
- ・唾液腺疾患の診断に必要な画像検査法を列挙し、特徴的な画像所見を説明する。
- ・顎骨に影響する全身疾患の特徴的な画像所見を説明する。
- ・舌下・顎下・頸部の疾患の診断に必要な画像検査法を列挙し、特徴的な画像所見を説明する。
- ・上顎洞の病変の診断に必要な画像検査法を列挙し、特徴的な画像所見を説明する。
- ・顎関節疾患の診断に必要な画像検査法を列挙し、特徴的な画像所見を説明する。
- ・悪性新生物に対する放射線治療を概説する。

【授業形態】

スライドや資料等を用いて講義を行う。

【履修上の注意】

- ・あらかじめ講義前にwebページから各回の講義ノートをダウンロードして教科書や参考書で予習をし、webで情報収集をして各行動目標に対する課題や疑問点を明確化して講義に臨むこと。
- ・「放射線学総論」の内容を復習した上で授業に臨むこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/2（金）2限	歯科放射線診断学序論（林）	テキスト第3章（1～2）・第5章（1）の要点確認
2	10/9（金）2限	歯科撮影法1（口内法）（西山）	テキスト第4章（1）の要点確認
3	10/16（金）2限	歯科撮影法2（口外法）（西山）	テキスト第4章（2～5）の要点確認
4	10/23（金）2限	歯科撮影法3（パノラマ・顎関節）（西山）	テキスト第4章（2～5）の要点確認
5	10/30（金）2限	齲蝕、歯髄・根尖性歯周組織疾患、歯周疾患（西山）	テキスト第5章（2～5）の要点確認
6	11/13（金）2限	顎骨とその周囲の炎症（西山）	テキスト第5章（6）の要点確認
7	11/20（金）2限	顎骨の嚢胞・腫瘍1（林）	テキスト第5章（7）の要点確認
8	11/27（金）2限	顎骨の嚢胞・腫瘍2（林）	テキスト第5章（7）の要点確認
9	12/4（金）2限	顎骨の嚢胞・腫瘍3（林）	テキスト第5章（7）の要点確認
10	12/11（金）2限	舌下・顎下・頸部の疾患（林）	テキスト第5章（8）の要点確認
11	12/18（金）2限	唾液腺疾患（林）	テキスト第5章（9）の要点確認
12	12/25（金）2限	口腔の悪性腫瘍（林）	テキスト第5章（10）の要点確認
13	1/8（金）2限	上顎洞の病変、歯と顎骨の外傷（林）	テキスト第5章（13～14）の要点確認
14	1/15（金）2限	顎関節の病変（西山）	テキスト第5章（12）の要点確認
15	1/22（金）2限	顎骨に影響する全身疾患（林）	テキスト第5章（11）の要点確認
16	1/29（金）2限	放射線治療（勝良）	テキスト第6章の要点確認

【成績評価の方法と基準】

学習の到達目標で示したすべての項目についての多選択肢形式筆記試験（90%）と、毎回の講義の際の小テストを含めた

授業に対する関心・意欲・態度（10%）により評価を行い、これにより合否を判定する。

【使用テキスト】

岡野 友宏・他編「歯科放射線学（第6版）」医歯薬出版（11,000円税別）

【参考文献】

佐野 司 編「歯科放射線マニュアル（第4版）」南山堂（3,800円税別）

東 与光・他著「アトラス口腔画像診断の臨床（第2版）」医歯薬出版（6,700円税別）

日本歯科放射線学会 編「歯科臨床における画像診断アトラス」医歯薬出版（12,000円税別）

【参考Webサイト】

歯科放射線学 <https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~radiology/edu/>

科 目 名：臨床英会話

担 当 教 員：Stegarioiu Roxana

開 講 番 号：200DS421

開 講 学 期：第2学期

水 準：13

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

英語しか話せない患者さんが来院された場合を想定し、患者役の学生に問診を取り、診療方針、診療計画等を説明する。初診時の手続きから、治療後の留意事項まで、歯科の全分野に渡って頻繁に使われる表現およびコミュニケーションの取り方を学ぶ。

※歯科医師として海外での実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を英語で行う。

【科目のねらい】

外国での留学等の場面や国内での歯科医療に従事した場面で日本語が話せない患者さんと英語によるコミュニケーションを良好に行うために、歯科における基本的な臨床英会話を学ぶ。

【学習の到達目標】

- ・日本語に不慣れな外国人患者さんの臨床英会話を聞いてその内容を理解する。
- ・その患者さんに診療方針、診療計画等を説明する際に各歯科分野において伝えたい内容を英語で的確に表現する。

【授業形態】

教科書等を用いて歯科臨床における基本的な英単語と簡単な表現を学んだ後、ロールプレイ（患者役および歯科医師役）によって英会話を練習する。

【履修上の注意】

- ・各歯学臨床分野の基本的な知識があることが望ましい。
- ・中級程度の英語力があること。
- ・事前に提供する単語集を用いて各回における用語を学習すること。
- ・教科書付属のCDで各回の英会話を聞いて発音を確認すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/7（水）2限	初診に関する英会話	初診に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
2	10/14（水）2限	保存処置（知覚過敏・修復処置）に関する英会話	知覚過敏・修復処置に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
3	10/21（水）2限	保存処置（抜髄、感染根管治療）に関する英会話	抜髄、感染根管治療に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
4	10/28（水）2限	歯周治療（歯肉炎）に関する英会話	歯肉炎の治療に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
5	11/4（水）2限	歯周処置（歯周炎）に関する英会話	歯周炎の治療に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
6	11/11（水）2限	クラウン・ブリッジによる補綴処置に関する英会話	クラウン・ブリッジによる処置に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
7	11/18（水）2限	インプラント治療に関する英会話	インプラント治療に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
8	11/25（水）2限	可撤性義歯による処置に関する英会話	可撤性義歯に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
9	12/2（水）2限	歯科予防処置（ケア）に関する英会話	歯科予防処置に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
10	12/9（水）2限	小児への処置に関する英会話	小児への処置に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
11	12/16（水）2限	矯正処置に関する英会話・審美歯科に関する英会話	矯正処置・審美歯科に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
12	12/23（水）2限	顎関節症に関する英会話	顎関節症に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
13	1/13（水）2限	摂食・嚥下リハビリテーションに関する英会話	摂食・嚥下リハビリテーションに関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）
14	1/20（水）2限	特殊な歯科処置に関する英会話	特殊な歯科処置に関する用語学習・聴解練習（テキスト付属CD）

- | | | | |
|----|-------------|--------------------|---|
| 15 | 1/27 (水) 2限 | 口腔外科と歯科麻酔処置に関する英会話 | 口腔外科と歯科麻酔処置に関する用語学習・
聴解練習 (テキスト付属CD) |
| 16 | 2/3 (水) 2限 | 試験 | 15回までの学習内容の復習 |

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (85%)、授業中に示した英会話能力 (15%)。

【使用テキスト】

加藤 有三 監修「チェア－サイドの歯科英会話」医歯薬出版 (3,200円 + 税)

【参考文献】

英和・和英辞典

科 目 名：生涯にわたる歯と咬合

担 当 教 員：濃野 要、齋藤 功、堀 一浩、吉羽 永子、大島 邦子、秋葉 奈美、野中 由香莉

開 講 番 号：200DS422

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：2単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

「歯」とその機能である「咬合」に関連した3つのシナリオについて、分野横断型問題解決型学習（PBL：Problem-Based Learning）により、統合的観点から学習し議論する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯科学の基本的要素である「歯」と「咬合」の役割と機能について、臨床に即したケースをもとに少人数のグループにて討議し、問題点の抽出、病態の把握、一口腔単位での診断を行うことで、生涯にわたる口腔健康維持の重要性を理解する。

【学習の到達目標】

- ・口腔内の状態・病態を把握し、一口腔単位での診断をすることを理解する。
- ・小児期から高齢期までの口腔の成長・変化について説明することができる。
- ・小児期から高齢期までの歯科疾患の予防、治療について説明することができる。
- ・歯、歯周組織、咬合の状態とその機能の関係について考えることができる。
- ・ライフステージを意識した歯科疾患の予防、治療について考えることができる。
- ・他の学習者や教員と協力して、解決方法を見出すことができる。
- ・自ら情報を収集、分析を行い、問題点を探し出すことができる。
- ・自らの収集した情報や考えを媒体にまとめ、他者に伝えることができる。

【授業形態】

小児・矯正、歯科保存、歯科補綴、の3つのシナリオについて、PBL、グループごとの全体発表、教員によるフィードバック、および筆記試験をそれぞれ行う。

【履修上の注意】

- ・PBLでは積極的に討論に参加すること。
- ・自身の学習の成果をグループメンバーに還元し、グループ全体でお互いに共有すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/14（火）3-4限	ガイダンス（濃野）、シナリオ1提示、課題抽出（齋藤、大島、FC）	詳細は授業で指示する。
2	4/21（火）3-4限	シナリオ1グループ討議1、発表準備1（濃野、FC）	抽出・設定した課題についての自主学習
3	4/28（火）3-4限	シナリオ1グループ討議2、発表準備2（濃野、FC）	グループ討議で新たに抽出・設定した課題についての自主学習
4	5/8（金）3-4限	シナリオ1全体発表とコメント、筆記試験（齋藤、大島）	発表媒体の準備
5	5/12（火）3-4限	シナリオ2提示、課題抽出、グループ学習（吉羽、野中、FC）	詳細は授業で指示する。
6	5/19（火）3-4限	シナリオ2グループ討議1、発表準備1（濃野、FC）	抽出・設定した課題についての自主学習
7	5/26（火）3-4限	シナリオ2グループ討議2、発表準備2（濃野、FC）	グループ討議で新たに抽出・設定した課題についての自主学習
8	6/2（火）3-4限	シナリオ2全体発表とコメント、筆記試験（吉羽、野中）	発表媒体の準備
9	6/9（火）3-4限	シナリオ3提示、課題抽出、グループ学習（堀、秋葉、FC）	詳細は授業で指示する。
10	6/16（火）3-4限	シナリオ3グループ討議1、発表準備1（濃野、FC）	抽出・設定した課題についての自主学習
11	6/23（火）3-4限	シナリオ3グループ討議2、発表準備2（濃野、FC）	グループ討議で新たに抽出・設定した課題についての自主学習
12	6/30（火）3-4限	シナリオ3全体発表とコメント、筆記試験（堀、秋葉）	発表媒体の準備

13	7/7 (火)	3-4 限	トリプルジャンプ説明とシナリオ提示、STEP 1 (課題抽出)、STEP 2 (抽出課題学習) (濃野)	詳細は授業で指示する。
14	7/14 (火)	3-4 限	トリプルジャンプSTEP 2 (抽出課題学習)、プロダクト提出 (濃野)	抽出・設定した課題についての自主学習
15	9/1 (火)	3-4 限	トリプルジャンプSTEP 3 (濃野、他)	提出したプロダクトについての学習
16	9/8 (火)	3-4 限	シナリオ 1～3 およびトリプルジャンプの復習 (濃野、他)	詳細は授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

全ての回の出席を原則とする。各シナリオの発表準備態度および発表会の内容 (40%)、筆記試験 (30%)、トリプルジャンプのパフォーマンス (30%) により総合的に評価する。

【使用テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

これまでに用いた各科目の教科書をはじめ、多くの書籍、論文、インターネットなど多岐にわたるリソースを駆使して学習する。

科 目 名：包括社会歯科学

担 当 教 員：大内 章嗣、葭原 明弘、濃野 要、平田 幸夫（非）、田中 彰（非）、神成 庸二（非）、恒石 美登里（非）

開 講 番 号：200DS423

開 講 学 期：第2学期

水 準：14

単 位 数：2単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

歯科医療に対し社会の側から提起された問題を歯科医療の側から解決しようというのが社会歯科学である。狭義の社会歯科学・医事法制と歯科医療管理学からなり、これらについて講義および演習（ロールプレイおよびディベート）により学習する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯科医師として適正な歯科医療を実践するために必要となる社会歯科学（歯科医師法等の医療従事者資格法、医療法、健康保険法等の医事法制を含む）および歯科医療管理に関する知識を習得する。

【学習の到達目標】

- ・ 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法を概説できる。
- ・ 医師、薬剤師、看護師などの他の医療関係職種との業務と歯科医師との関わりを説明できる。
- ・ 医療法および医療提供体制、地域包括ケアシステムについて概説できる。
- ・ 患者の自己決定権および患者の権利（診療情報開示、個人情報保護を含む）について説明できる。
- ・ 医療事故防止の基本的考え方と具体的対応策、医療事故等が発生した場合の対処を説明できる。
- ・ 医療保険制度、介護保険制度および関連社会福祉制度について概説できる。
- ・ 大規模災害発生時の歯科医師・歯科保健医療の役割について説明できる。
- ・ 歯科医療機関の運営に必要なトップマネジメント、人事管理、財務管理に関する基本概念を説明できる。

【授業形態】

講義を中心に、一部演習（ロールプレイおよびディベート）により学習する。

【履修上の注意】

- ・ 事前学習は各回の教科書の該当ページを読み、要点および疑問点をまとめておくこと。ただし、教科書は近年の制度改正等を反映していない場合があるので、その他留意事項は初回時に指示する。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/6（火）3-4限	オリエンテーション 社会歯科学を学ぶための基礎知識・資料（平田、大内）	テキストp1-8を予習し、疑問点等を整理しておく。
2	10/13（火）3-4限	歯科医師法等の医療関係資格法について1（大内）	テキストp55-66を予習し、疑問点等を整理しておく。
3	10/20（火）3-4限	歯科医師法等の医療関係資格法について2（大内）	テキストp71-78を予習し、疑問点等を整理しておく。
4	10/27（火）3-4限	歯科医師会と歯科医療管理の実際について（神成、大内）	テキストp187-194を予習し、疑問点等を整理しておく。また、新潟県歯科医師会の活動内容について調べておく。
5	11/6（金）3-4限	医療法および医療安全確保のための措置について（大内）	テキストp33-46を予習し、疑問点等を整理しておく。
6	11/10（火）3-4限	自己決定権を中心とした患者の権利（インフォームドコンセント、診療情報開示を含む）と医療事故対策（医事紛争を含む）について（葭原）	テキストp8-13、85-87、97-103、110-111を予習し、疑問点等を整理しておく。
7	11/17（火）3-4限	社会保険制度の概要	テキストp143-157を予習し、疑問点等を整理しておく。
8	11/24（火）3限	医療保険制度および介護保険制度について1（大内）	テキストp157-164、テキストp79-83を予習し、疑問点等を整理しておく。
9	12/1（火）3限	医療保険制度および介護保険制度について2（大内）	テキストp170-183を予習し、疑問点等を整理しておく。
		地域包括ケアについて（大内）	
		関連社会福祉制度（生活保護、障害者福祉等）について（大内）	
		地域包括ケア演習（大内）	第8回で提示された課題について発表できるようまとめておく。

10	12/8 (火)	3-4 限	国における保健・医療・介護施策の動向と歯科の関わり (恒石、大内)	厚生労働省HPで興味のある審議会・検討会を1つ選び、直近数回分の会議資料および議事録を読んでおく。
11	12/15 (火)	3 限	地域包括ケア演習 (発表) (大内)	第9回の演習で作成したケアプランの内容発表準備。詳細は授業時に指示する。
12	12/22 (火)	4 限	社会歯科学実践演習1 (大内、葭原、濃野)	第11回で提示された課題についてグループ内で発表できるようまとめておく。
13	12/22 (火)	3-4 限	社会歯科学実践演習2 (大内、葭原、濃野)	テキストp47-50を予習し、疑問点等を整理しておく。また、過去の大規模災害時における歯科の取組事例を調べておく。
14	1/12 (火)	3-4 限	大規模災害発生時の対応と歯科の役割 (田中、大内)	各グループでまとめた内容を的確に発表できるよう準備し、質疑に回答できるよう課題を整理しておく。
15	1/19 (火)	3-4 限	社会歯科学実践演習③ (大内、葭原、濃野)	医療法人制度と医療経営マネジメントの内容について調べ、疑問点等を整理しておく。
16	1/26 (火)	3-4 限	経営マネジメントの基礎知識 (大内)	これまでの授業内容を復習・整理しておく。
17	2/2 (火)	3-4 限	まとめと試験 (大内)	

【成績評価の方法と基準】

選択式および記述式の筆記試験 (80%) および学習態度評価 (20%) により総合的に評価する。

【使用テキスト】

石井 拓男・他編「スタンダード社会歯科学 (第7版)」学研書院 (4,500円)

科 目 名：医療倫理

担 当 教 員：宮坂 道夫（保）

開 講 番 号：200DS424

開 講 学 期：第1学期

水 準：13

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

現代医療には、医学的知識のみでは解決困難な倫理的問題が多い。本科目では、それらを系統的に整理するとともに、根拠に基づいた臨床判断（および医療政策の形成）をするための基礎を学習する。

【科目のねらい】

医療倫理学の基礎的理論、歴史、関係法規を踏まえて、歯科医として適切な倫理的判断を行うための方法を習得し、医学的知識に倫理的知識を統合したアカウンタビリティの基礎を身につける。

【学習の到達目標】

- ・医療倫理の主要な概念、原則、歴史、関連法規を説明できる。
- ・医療倫理の原則に基づいた倫理的問題の整理ができる。
- ・歯科診療に関わる主要な倫理的問題（患者の権利、インフォームド・コンセント、生と死に関わる問題等）を含む具体的な症例・事例に対して、倫理的問題を整理した上で、適切な意思決定のプロセスを提示できる。

【授業形態】

- ・医療倫理学の主要な概念、原則、歴史、関連法規および意思決定の方法論について、講義によって学習する。
- ・個別的なテーマを設定し、講義および小グループ演習形式の学習を行う。症例・事例を題材にしてグループ検討を行い、教室全体でそのテーマについての主要な問題点について検討する。

【履修上の注意】

- ・受講者は、あらかじめ講義で扱う教科書の該当箇所を読んでおくこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/10（金）4限	医療倫理学とは何か？	テキスト第1部の要点整理
2	4/24（金）4限	医療倫理学の歴史	テキスト第1部の要点整理
3	5/1（金）4限	医療倫理学の方法（1）	テキスト第2部の要点整理
4	5/22（金）4限	医療倫理学の方法（2）	テキスト第2部の要点整理
5	5/29（金）3限	医療倫理学各論（1）	テキスト第3～6部の要点整理
6	6/5（金）4限	医療倫理学各論（2）	テキスト第3～6部の要点整理
7	6/12（金）3限	医療倫理学各論（3）	テキスト第3～6部の要点整理
8	6/19（金）4限	総括・試験	1～7回の授業内容の復習

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の成績（50%）および講義中に課す課題（50%）で評価する。

【使用テキスト】

宮坂 道夫「医療倫理学の方法（第3版）」医学書院（2,800円）

【参考文献】

宮坂 道夫・他訳「医療倫理1」みすず書房（5,500円）
 宮坂 道夫・他訳「医療倫理2」みすず書房（5,500円）
 大井 賢一・他著「歯科医療倫理Q&A」太陽出版（1,800円）

科 目 名：医科学 I

開 講 番 号：200DS425

開 講 学 期：1 学期

水 準：13

単 位 数：2 単位

対 象 学 部 等：歯学科 4 年生

【科目概要】

歯科医療を行う上では、口腔内や顎顔面領域の疾患と全身疾患との関連について理解する必要がある。また、医科歯科連携のためにも基礎的な医学的知識を身につけることは重要である。本授業では「循環器内科学」「血液・内分泌・代謝内科学」「腎・膠原病内科学」「呼吸器・感染症内科学」「小児科学」「消化器・一般外科学」「整形外科学」の講義を行い、各領域における代表的疾患の基礎知識、およびそれらと歯科疾患との関連について学習する。

【科目のねらい】

歯科医師として適切な対応がとれるよう、医科の各領域における代表的疾患に関する基礎的知識を習得する。また、それらの疾患について歯科疾患との関連を理解する。

【成績評価の方法と基準】

「循環器内科学」「血液・内分泌代謝内科学」「腎・膠原病内科学」「呼吸器・感染症内科学」「小児科学」「消化器・一般外科学」「整形外科学」のそれぞれについて評価を行い、すべて60点以上の者を合格とする。

※各試験科目の「学習の到達目標」「学習方法・学習上の注意」「授業計画」「成績評価の方法と基準」「参考文献」は以下に示す。

試験科目名：血液・内分泌・代謝内科学

担当：血液・内分泌・代謝内科学分野

【学習の到達目標】

- ・血液・造血器・リンパ系の主要な疾患を概説し、症状、所見を理解する。
- ・血液・造血器・リンパ系の主要な疾患において、歯科医として注意すべき点を理解する。
- ・内分泌・代謝系の主要な疾患を概説し、症状、所見を理解する。
- ・内分泌・代謝系の主要な疾患において、歯科医として注意すべき点を理解する。

【授業形態】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。

【履修上の注意】

- ・講義内容について資料等を復習すること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	4/8（水）1限	糖尿病（藤原）	内分泌・代謝に関する解剖学・生理学の確認
2	4/15（水）1限	内分泌（石黒）	
3	4/22（水）1限	貧血、白血病、リンパ腫（柴崎）	血液に関する解剖学・生理学の確認
4	4/29（水）1限	血栓止血・試験（河本）	
5	5/7（木）1限	試験	1～4回の授業内容の復習

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

- ・井村 裕夫・他編「わかりやすい内科学（第4版）」文光堂（9,000円）
- ・福井 次矢・他編「内科診断学（第3版）」医学書院（9,500円）
- ・西田 次郎・他編「歯科のための内科学（改訂第4版）」南江堂（8,500円）

試験科目名：循環器内科学**担当：循環器内科学分野****【学習の到達目標】**

- ・循環器の主要な疾患の病名を列挙し、概説できる。
- ・循環器の主要な疾患の症状、所見を説明できる。
- ・循環器の主要な疾患で歯科医として注意すべき点を説明できる。

【授業形態】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。

【履修上の注意】

- ・講義内容について資料等を復習すること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	5/13（水）1限	総論、虚血系心疾患	循環器の解剖学・生理学の復習
2	5/20（水）1限	心不全、心筋症、弁膜症と感染性心内膜炎	
3	5/27（水）1限	不整脈、試験	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

- ・井村 裕夫・他編「わかりやすい内科学（第4版）」文光堂（9,000円）
- ・福井 次矢・他編「内科診断学（第3版）」医学書院（9,500円）
- ・西田 次郎・他編「歯科のための内科学（改訂第4版）」南江堂（8,500円）

試験科目名：腎・膠原病内科学**担当：腎・膠原病内科学分野****【学習の到達目標】**

- ・腎・尿路系の代表的疾患の診断と治療の概略を理解する。
- ・膠原病の代表的疾患の診断と治療の概略を理解する。
- ・腎・尿路系および膠原病の疾患と歯科疾患の病態の関連を理解する。
- ・腎・尿路系および膠原病の疾患を合併する歯科患者を管理するうえでの注意事項を理解する。

【授業形態】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。

【履修上の注意】

- ・腎機能の生理学について復習をした上で、授業に臨むこと。
- ・参考文献等を用いて予習・復習すること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	7/2（木）1限	膠原病（黒田）	免疫学の確認
2	7/9（木）1限	腎の構造、原発性糸球体疾患、尿細管間質障害（金子）	腎・尿路系の解剖学・生理学の確認
3	7/16（木）1限	続発性腎障害、急性腎障害、慢性腎臓病（金子）	腎・尿路系の解剖学・生理学の確認 1～3回の授業の復習
4	7/22（水）1限	試験	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

- ・高久 史磨・他監修「新臨床内科学（第9版）」西村書店（22,000円）

試験科目名：呼吸器・感染症内科学

担当：感染症内科学分野

【学習の到達目標】

- ・呼吸器系の代表的疾患の診断と治療の概略を理解する。
- ・代表的な感染症の診断と治療の概略を理解する。
- ・呼吸器系疾患および感染症と歯科疾患の病態の関連を理解する。
- ・呼吸器系疾患および感染症を合併する歯科患者を管理するうえでの注意事項を理解する。

【授業形態】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。

【履修上の注意】

- ・免疫系、呼吸器系の生理学、および細菌学、ウイルス学、真菌学、免疫学について復習した上で授業に臨むこと。
- ・参考文献等を用いて予習・復習すること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	6/4（木）1限	誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎、院内感染対策（茂呂）	免疫系・呼吸器系の解剖学・生理学・細菌学
2	6/11（木）1限	HIV感染症、結核（茂呂）	及びウイルス学・真菌学・免疫学の復習
3	6/18（木）1限	肺炎、喘息、気管支異物、睡眠時無呼吸症候群（青木）	
4	6/25（木）1限	呼吸器病の構造、呼吸生理、症候、検査・試験（林）	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

- ・高久 史磨・他監修「新臨床内科学（第9版）」西村書店（22,000円）

試験科目名：小児科学

担当：小児科学分野

【学習の到達目標】

- ・小児の発達、生理的特徴について説明できる。
- ・小児期特有の疾患の診断と治療について説明できる。
- ・歯科領域に関連する小児疾患について説明できる。

【学習方法・学習上の注意】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。
- ・事前に参考文献を通読しておくことが望ましい。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	6/5（金）1限	免疫、アレルギー、腎疾患、感染症（相澤）	各器官の発生学・解剖学・生理学の確認
2	6/12（金）1限	血液腫瘍性疾患（今村）	〃
3	6/19（金）1限	小児科総論、小児保健、発達（齋藤）	〃
4	6/26（金）1限	呼吸器、循環器疾患、小児救急（沼野）	〃
5	7/3（金）1限	内分泌、代謝疾患、消化器疾患（長崎）	〃
6	7/10（金）1限	先天異常および新生児疾患（金子）	〃
7	7/17（金）1限	試験	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

原 寿郎・他編「標準小児科学（第8版）」医学書院（8,800円）

試験科目名：消化器・一般外科学

担当：消化器・一般外科学分野

【学習の到達目標】

- ・外科学の歴史、基本手技、病態生理を説明できる。
- ・消化器系疾患の外科治療について説明できる。

【学習方法・学習上の注意】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。
- ・講義内容について配布資料や参考文献を用いて復習すること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）
1	4/10（金）1限	外科の歴史、基本的診断法（中野）
2	4/17（金）1限	出血、輸血、腫瘍（石川）
3	4/24（金）1限	無菌法、外科的基本手技・処置（羽入）
4	5/1（金）1限	炎症、免疫、移植（石川）
5	5/15（金）1限	侵襲時の病態生理、周術期管理（羽入）
6	5/22（金）1限	試験（中野）

準備学習

消化器をはじめとする各器官の解剖学・生理学について復習

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

北野 正剛・他編「標準外科学（第15版）」医学書院（8,500円）

試験科目名：整形外科

担当：整形外科リハビリテーション学分野

【学習の到達目標】

- ・整形外科の概要を説明できる。
- ・整形外科と歯学で共通して役立つ骨・軟骨の組織学・代謝学・分子生物学について説明できる。
- ・整形外科の一般的な疾患の診断、治療法について説明できる。
- ・整形外科に関する最近のトピックを説明できる。

【学習方法・学習上の注意】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。
- ・参考文献を用いて予習・復習をすること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）
1	7/3（金）4限	関節疾患（谷藤）
2	7/10（金）4限	外傷（普久原）
3	7/17（金）4限	整形外科一般・骨代謝（今井）
4	7/21（火）4限	腫瘍・脊椎・試験（川島）

準備学習

関節疾患の概要と理解
骨接合の方法と骨癒合の経過および合併症の確認
骨や筋に関する解剖学・生理学の確認
骨・軟部腫瘍と脊椎脊髄病の概要の理解

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

井樋 栄二、吉川 秀樹、津村 弘 編：標準整形外科 第13版、医学書院

科 目 名：医科学Ⅱ

開 講 番 号：200DS426

開 講 学 期：2 学期

水 準：13

単 位 数：2 単位

対 象 学 部 等：歯学科4年生

【科目概要】

歯科医療を行う上では、口腔内や顎顔面領域の疾患と全身疾患との関連について理解する必要がある。また、医科歯科連携のためにも基礎的な医学的知識を身につけることは重要である。本授業では「消化器内科学」「神経内科学」「呼吸循環外科学」「脳神経外科学」「小児外科学」の講義を行い、各領域における代表的疾患の基礎知識、およびそれらと歯科疾患との関連について学習する。

【科目のねらい】

歯科医師として適切な対応がとれるよう、医科の各領域における代表的疾患に関する基礎的知識を習得する。また、それらの疾患について歯科疾患との関連を理解する。

【成績評価の方法と基準】

「消化器内科学」「神経内科学」「呼吸循環外科学」「脳神経外科学」「小児外科学」のそれぞれについて評価を行い、すべて60点以上の者を合格とする。

※各試験科目の「学習の到達目標」「学習方法・学習上の注意」「授業計画」「成績評価の方法と基準」「参考文献」は以下に示す。

試験科目名：消化器内科学

担当：消化器内科学分野

【学習の到達目標】

- ・消化器系の疾患を理解するために必要な解剖学、生理学、発生学、病理学などの基礎的事項を理解する。
- ・消化器系の疾患の病名をあげ、それらの診断に必要な検査、検査所見、治療、予後について理解する。
- ・歯科医として遭遇する可能性の高い消化器系の疾患を挙げ、それらの病因、病態生理、診断法、治療法、予後、予防法などについて理解する。

【授業形態】

スライド、資料を用いての講義を行う。スライドでは典型例の内視鏡写真やレントゲン写真を示すことがある

【履修上の注意】

- ・消化器系の各臓器の解剖学的、生理学的特徴について復習した上で、授業に臨むこと。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	12/9（水）1限	消化器内科学総論（寺井）	消化器に関する解剖学・生理学・病理学の確認
2	12/16（水）1限	上部消化管疾患（佐藤）	
3	12/23（水）1限	下部消化管疾患（水野）	
4	1/13（水）1限	肝臓疾患（上村）	
5	1/20（水）1限	胆嚢疾患（林）	
6	1/27（水）1限	試験（上村）	

【参考文献】

高久 史磨・他監修「新臨床内科学（第9版）」医学書院（22,000円）

試験科目名：神経内科学**担当：神経内科学分野****【学習の到達目標】**

- ・神経系の解剖、機能解剖、神経徴候との関連について説明できる。
- ・頭痛・顔面痛をきたす神経疾患の臨床的特徴と診断について説明できる。
- ・認知症の臨床的特徴と診断・治療について説明できる。
- ・Parkinson病などの主要な変性疾患の原因、症状、予後を説明できる。

【授業形態】

スライド、資料を用いての講義を行う。

【履修上の注意】

- ・講義内容について資料等を復習すること。
- ・事前に神経解剖学の内容を復習すること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	2/3（水）1限	頭痛・顔面痛と神経疾患（佐治）	神経系に関する解剖学・生理学を確認
2	2/3（水）3限	認知症（徳武）	〃
3	2/4（木）3限	不随意運動と運動異常症、試験（今野）	〃

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

矢崎 義雄 編「内科学（第11版）」朝倉書店（26,800円）

試験科目名：呼吸循環外科学**担当：胸部外科学分野****【学習の到達目標】**

- ・呼吸器系および循環器系の疾患の診断に必要な症状と検査を列挙できる。
- ・呼吸器系および循環器系の各疾患に対する外科的治療の内容を理解し説明できる。
- ・歯科と関連がある呼吸器系および循環器系の疾患、病態を列挙し、詳細に説明できる。

【授業形態】

スライド、資料を用いての講義を行う。

【履修上の注意】

- ・呼吸器（肺・器官）、循環器（心臓・血管）の生理学・解剖学を復習しておくこと。それらの理解がある前提で授業を進める。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	12/10（木）3限	後天性心疾患	呼吸器系・循環器系の解剖学・生理学の確認
2	12/17（木）3限	脈管疾患	〃
3	12/24（木）3限	小児心臓外科	〃
4	1/7（木）3限	呼吸器疾患	〃
5	1/21（木）3限	静脈疾患、心内膜炎、抜歯ガイドライン	〃
6	1/28（木）3限	試験	〃

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

北野 正剛・他編「標準外科学（第14版）」医学書院（8,500円）

日本循環器学会HP：<http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm>

2「感染性心内膜炎の予防と治療に関するガイドライン」

6「肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン」

57「循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン」

試験科目名：脳神経外科学**担当：脳神経外科学分野****【学習の到達目標】**

- ・脳神経外科疾患の特異性について説明できる。
- ・脳血管障害、脳腫瘍、小児脳疾患、頭部外傷の病態と治療を説明できる。
- ・神経系の解剖、生理および画像診断を理解し、各疾患の診断法を説明できる。

【授業形態】

スライド、資料を用いての講義を行う。

【履修上の注意】

- ・神経系の解剖学および生理学の内容を復習した上で授業に臨むこと。
- ・参考文献を用いて予習・復習すること。
- ・頭部単純CT軸位像の正常解剖を把握していることが望ましい。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	12/11（金）1限	総説・小児・脊髄（小倉）	神経系の解剖学・生理学の確認
2	12/18（金）1限	外傷・悪性腫瘍（棗田）	〃
3	12/25（金）1限	良性腫瘍・てんかん・微小血管減圧術（平石）	〃
4	1/8（金）1限	脳血管障害（鈴木）	〃
5	1/15（金）1限	試験およびその解説（小倉）	〃

【参考文献】

新井 一・他編「標準脳神経外科学（第14版）」医学書院（7,000円）

試験科目名：小児外科学**担当：小児外科学分野（代表：荒井 勇樹 助教）****【学習の到達目標】**

- ・代表的小児外科疾患を列挙できる。
- ・代表的小児外科疾患の病態を説明できる。

【授業形態】

スライド、資料を用いての講義を行う。

【履修上の注意】

- ・参考文献を用いて予習・復習すること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	準備学習
1	10/1（木）3限	小児外科総論・新生児疾患	各器官の発生学・解剖学・生理学の確認
2	10/8（木）3限	腹壁・ソ径部疾患、小児肝胆膵外科学概論	〃
3	10/15（木）3限	小児腫瘍外科学概論	〃
4	10/22（木）3限	まとめ、試験	〃

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）を基に総合的に評価を行う。なお、出欠状況を加味するが出席による加点は行わない。

【参考文献】

上野 滋・他編「標準小児外科学（第7版）」医学書院（7,000円）